SONY

4-532-769-**03** (1)

データ
プロジェクター

取扱説明書

VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620
VPL-SX630

機種の中には、国・地域によって販売されていないものがあります。
ソニーの相談窓口に確認してください。

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。
この取扱説明書と付属の簡易説明書をよくお読みのうえ、
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

HDMI

© 2014 Sony Corporation

目次

はじめに

各部の名前と働き 4
本体 4
接続端子 5
リモコンと操作部 6
インタラクティブペンデバイス（VPL-SW635C/SW630C/SW620C のみ） 8

準備

接続のしかた 9
コンピューターとの接続 9
ビデオ機器との接続 12
マイクとの接続 14
USB メモリーとの接続 14
外部モニター、オーディオ機器との接続 15

映像の投写と画面の調整

映像を投写する 16
映像を調整する 18
電源を切る 21

メニューで行う調整と設定

メニューの操作のしかた 22
画質設定 *1 24
画面モード *1 26
機能設定 30
操作設定 32
接続／電源設定 33
設置設定 36
情報 37
PC フリーインタラクティブ機能使用時のご注意（VPL-SW635C のみ） 38

ネットワーク機能

ネットワーク機能を利用する 39
ウェブブラウザでプロジェクターのコントロール画面を開く 40
プロジェクターの状態を確認する 41
プロジェクターを操作する 41
メールレポート機能を利用する 41
プロジェクターの有線 LAN ネットワーク設定を行う 43
プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う 44
プロジェクターの入力端子ラベルを設定する 47
プロジェクターの制御プロトコルを設定する 48

インタラクティブ機能

Interactive Presentation Utility 2 を使用する（VPL-SW635C/SW630C/SW620C のみ） 52
USB ケーブルでコンピューターと接続する 54
Windows の場合 54
Mac の場合 58
PC フリーインタラクティブ機能を使用する（VPL-SW635C のみ） 61
PC フリーインタラクティブ機能を設定する 61
プロジェクター本体の保存データを取り出す 67
マウスモード機能を使用する（VPL-SW635C のみ） 68
マウスモードを設定する 68
マウスモード使用時のインタラクティブペンの操作について 69

ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能

ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能を使用する 70
Projector Station for Network Presentation をインストールする 71
Projector Station for Network Presentation を起動する 71
映像を転送する 71
接続設定 72
コントローラーの操作のしかた ... 73
タブレット端末／スマートフォンから画像やファイルを送信して表示する 74

USB 経由での動画と音声の再生

USB 経由で動画と音声を再生する 75
USB Display を起動する 75
動画と音声を再生する 76
コントローラーの操作のしかた ... 76

USB Media Viewer 機能

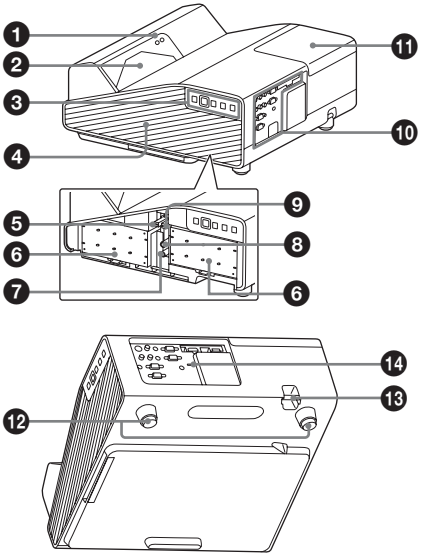
USB Media Viewer 機能を利用する 77
サムネイル表示モード 78
オプションメニュー 78
ディスプレイモード 79
オプションメニュー 79
スライドショーモード 80
オプションメニュー 80

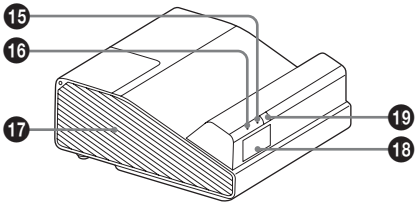
その他

インジケーターの見かた 82
メッセージ一覧 83
故障かな？と思ったら 85
ランプを交換する 90
エアーフィルターを掃除する 92
仕様 94
投写距離とレンズシフト量 101
寸法図 105
ソフトウェア使用許諾契約書 107
保証書とアフターサービス 114
索引 115

各部の名前と働き

本体





❶ センサー受光窓（VPL-SW635C/SW630C/SW620C のみ）

❷ 投写窓

❸ 操作部（6 ページ）

❹ サイドカバー／吸気口

❺ フォーカスレバー（18 ページ）

❻ エアーフィルター（92 ページ）

❼ レンズシフトダイヤル H（19 ページ）

❽ レンズシフトダイヤル V（19 ページ）

❾ ズームレバー（18 ページ）

❿ 接続端子部（5 ページ）

⓫ ランプカバー（90 ページ）

⓬ 脚（19 ページ）

⓭ 盗難防止用バー
市販の盗難防止チェーン（ワイヤー）などを取り付けることができます。

⓮ 盗難防止ロック
Kensington 社製の盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。詳しくは、Kensington 社のホームページをご覧ください。
http://www.kensington.com/

⓯ ON/STANDBY インジケーター（82 ページ）

⓰ LAMP/COVER インジケーター（82 ページ）

⓱ 排気口

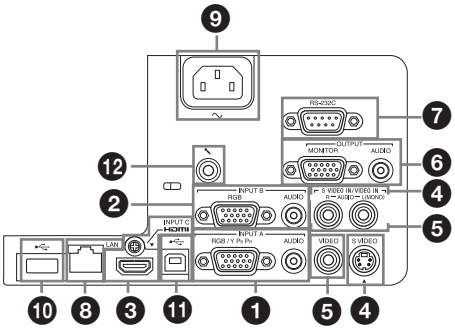
⚠警告

排気口、吸気口をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、排気口付近に手を近づけたり、変形しやすいものを置いたりしないでください。やけどや変形の原因になることがあります。

⓲ スピーカー

⓳ リモコン受光部

接続端子



入力（9、12 ページ）

❶ 入力 A（INPUT A）

映像：RGB ／ Y P_B P_R 入力端子（RGB ／ Y P_B P_R）

音声：音声入力端子（AUDIO）

❷ 入力 B（INPUT B）

映像：RGB 入力端子（RGB）

音声：音声入力端子（AUDIO）

❸ 入力 C（INPUT C）

映像：HDMI 入力端子（HDMI）

音声：HDMI 入力端子（HDMI）

❹ S ビデオ（S VIDEO IN）

映像：S ビデオ入力端子（S VIDEO）

音声：音声入力端子（L（MONO）AUDIO/R）

❺ ビデオ（VIDEO IN）

映像：ビデオ入力端子（VIDEO）

音声：音声入力端子（L（MONO）AUDIO/R）

ご注意

S ビデオとビデオは同じ音声入力端子を使います。

出力（15 ページ）

❻ 出力（OUTPUT）

映像：モニター出力端子（MONITOR）

音声：音声出力端子（AUDIO）

ご注意

入力 A、入力 B を選択時のみ、投写している映像または音声が出力されます。

その他

❼ RS-232C 端子（RS-232C）

RS-232C 準拠の制御用端子です。コンピューターの RS-232C 端子と RS-232C ケーブル（クロス）で接続します。

❽ LAN 端子（LAN）（40 ページ）

❾ 電源コンセント（～）

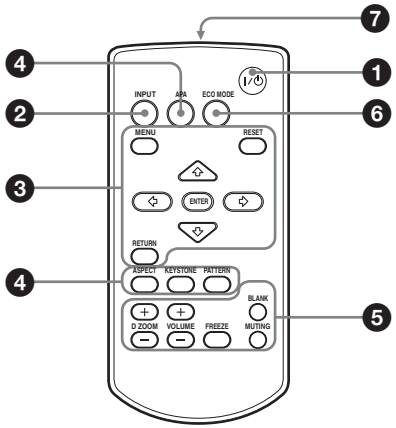
付属の電源コードを接続します。

❿ USB 端子（タイプ A）（ ）（14、77 ページ）

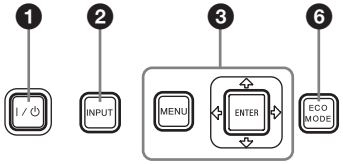
⓫ USB 端子（タイプ B）（ ）（75 ページ）

⓬ マイク端子（ ）

リモコン



操作部



❶ 電源を入／スタンバイする

I／⏻（オン／スタンバイ）ボタン

❷ 入力を切り換える（16 ページ）

INPUT（入力選択）ボタン

❸ メニュー操作などを行う（22 ページ）

MENU（メニュー）ボタン

RESET（リセット）ボタン

ENTER（決定）／ ↑/↓/←/→（矢印）ボタン

RETURN（戻る）ボタン

❹ 映像を調整する（18 ページ）

ASPECT（アスペクト）ボタン（26 ページ）

KEYSTONE（台形補正）ボタン（20 ページ）

PATTERN（パターン）ボタン（20 ページ）

APA（オートピクセルアライメント）ボタン*1（21 ページ）

ご注意

*1 RGB 入力端子（入力 A、入力 B）からコンピューター信号を入力しているときに使用できます。

❺ 投写中の便利な機能を利用する

D ZOOM（デジタルズーム）+/ −ボタン*1*3

投写中の映像の一部を拡大します。

1 D ZOOM + ボタンを押し、投写画面上にデジタルズームアイコンを表示する。

2 ↑/↓/←/→ ボタンで、拡大したい映像の位置にデジタルズームアイコンを移動させる。

3 D ZOOM + ボタンまたは D ZOOM − ボタンをくり返し押し、拡大率を変える。

拡大率は 1 倍から 4 倍まで変更できます。

RESET ボタンを押すと、元の映像に戻ります。

BLANK（映像消去）ボタン

一時的に投写中の映像を消します。もう一度押すと解除します。消画中はランプ出力を低下させ、消費電力を抑えることができます。

MUTING（消音）ボタン
音声出力時に一時的に音声を消します。もう一度押すと解除します。

VOLUME（音量）+/ −ボタン
音量を調整します。

FREEZE（フリーズ）ボタン *2*3
一時的に映像を静止します。もう一度押すと解除します。

ご注意

*1 コンピューター信号を入力しているときに使用できます。ただし入力信号の解像度によっては使用できない場合があります。

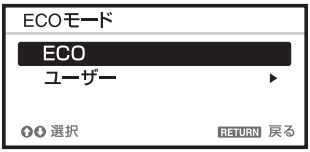
*2 コンピューター信号を入力しているときに使用できます。USB（タイプA）、USB（タイプB）、ネットワーク入力選択時は使用できません。

*3 PC フリーインタラクティブ機能のインタラクティブペンで描画したデータには作用しません。背景となる外部接続機器の映像に対してのみ有効になります（VPL-SW635C のみ）。

❻ 簡単に省エネ設定をする

ECO MODE（エコ モード）ボタン
「ランプモード」、「無信号時設定」、「信号無変化時設定」、「スタンバイモード」の省エネ設定ができます。

1 ECO MODE ボタンを押し、ECO モードメニューを表示する。



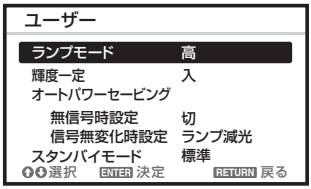
2 ↑/↓ ボタンまたは ECO MODE ボタンを押し、「ECO」または「ユーザー」モードを選ぶ。

ECO：それぞれの設定を最も省エネになる値（ランプモード：「低」／無信号時設定：「スタンバイ」／信号無変化時設定：「ランプ減光」/ スタンバイモード：「低」）に設定します。

ユーザー：ECO 設定を手動で行えます。（手順3へ）

3「ユーザー」を選び、→ ボタンを押す。

設定項目が表示されます。



4 ↑/↓ ボタンで項目を選択し、ENTER ボタンを押して設定項目を選ぶ。

5 ↑/↓ ボタンで設定値を選ぶ。

6 ENTER ボタンを押す。

元の画面に戻ります。

各設定項目の内容について詳細は、接続 / 電源設定メニュー（33 ページ）の「ランプモード」、「輝度一定」、「無信号時設定」、「信号無変化時設定」、「スタンバイモード」をご覧ください。

その他

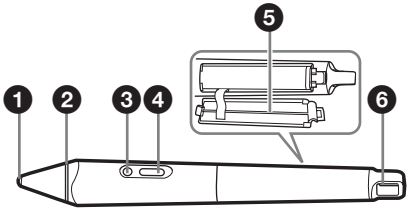
❼ リモコン発光部

リモコンの操作について
・リモコン受光部に向けて操作してください。

・本体に近いほど、操作可能な角度が広がります。

・リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物があると、操作できないことがあります。

インタラクティブペンデバイス（VPL-SW635C/SW630C/SW620Cのみ）



❶ ペン先
マウスの左クリックとして機能します。

❷ カラーリング
メイン（IFU-PN250A）：赤
サブ（IFU-PN250B）：青

❸ インジケーター
ボタンを押したときに点滅し、ペン先で画面を押したときに点灯します。電池残量が少ない場合は点灯しません。その場合は電池の交換を行ってください。

❹ ボタン
メイン：描画機能とマウスの切り替えができます。マウスモードを使用しているときは、右クリックとして使用できます（69 ページ）。
サブ：サブペンツールバーが表示されます。

❺ 電池カバー
電池カバーはベルトにより本体につなげられています。カバーを開く際にはベルトが切れないよう注意してください。

❻ ストラップ取り付け穴

接続のしかた

ご注意

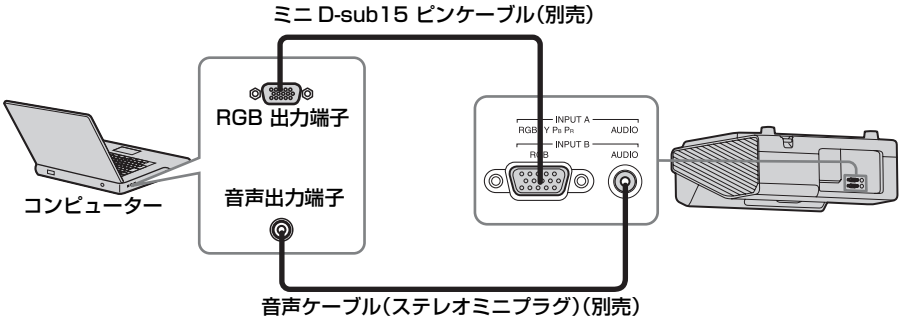
・各機器の電源を切った状態で接続してください。
・接続ケーブルは、各端子の形状に合った正しいものを選んでください。
・プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、動作不良や画質不良の原因になります。抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
・接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
・音声ケーブルは、抵抗なしのものをお使いください。

コンピューターとの接続

コンピューターとの接続のしかたを入力別に説明します。

入力 A（INPUT A）／入力 B（INPUT B）

RGB 出力端子付きのコンピューターと接続します。

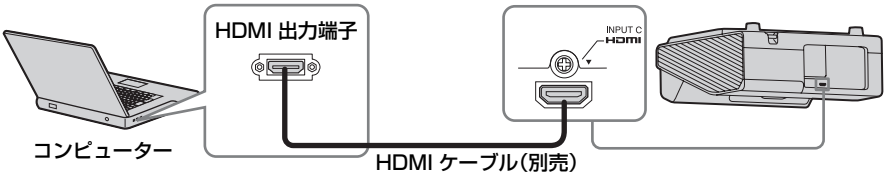


ご注意

コンピューターの画面の設定で、外部モニターの解像度を VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620 は 1280 × 800 ピクセル、VPL-SX630 は 1024 × 768 ピクセルに設定することをおすすめします。

入力 C（INPUT C）

HDMI 出力端子付きのコンピューターと接続します。

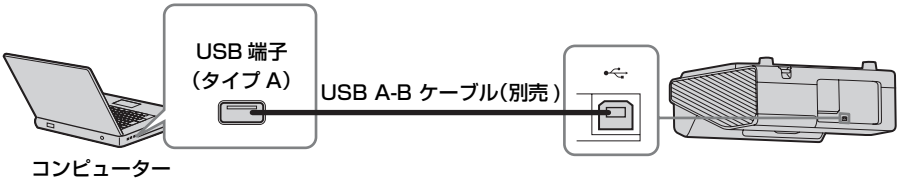


ご注意

・HDMI で接続する機器は、HDMI ロゴを取得したものをご使用ください。
・HDMI ケーブルは、ケーブルタイプロゴの明記された High Speed ケーブルをお使いください。（ソニー製を推奨します。）
・本機の HDMI 端子は、DSD（Direct Stream Digital）信号と CEC（Consumer Electronics Control）信号には対応していません。

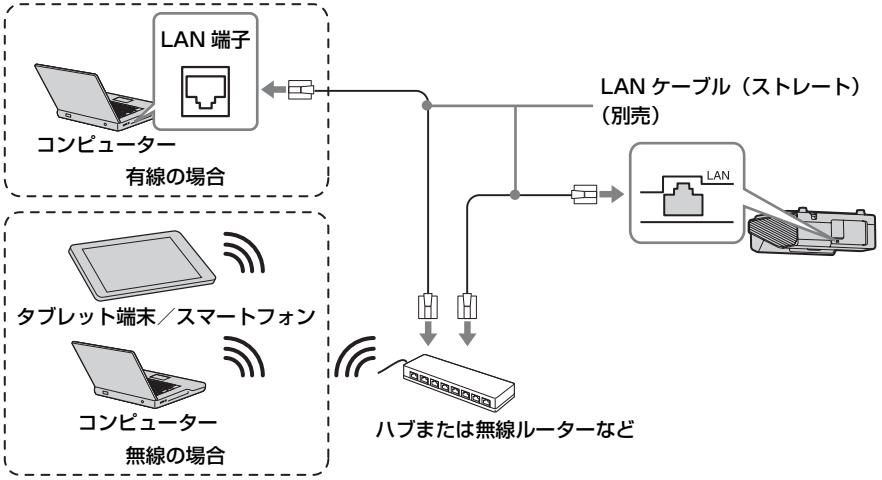
USB 端子（タイプ B）（ ）

USB 端子付きのコンピューターと接続します。（「USB 経由で動画と音声を再生する」（75 ページ））



LAN 端子（LAN）

ハブやルーターを経由して、コンピューター、タブレット端末、スマートフォンと接続します。（「ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能」（70 ページ））



USB 端子（タイプ A）（ ）

USB ワイヤレス LAN モジュール IFU-WLM3（別売）と接続します。（「ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能」（70 ページ））

ご注意

・指定以外の USB ワイヤレス LAN モジュールは動作しません。
・USB ワイヤレス LAN モジュールを抜き差しする場合には必ずプロジェクターがスタンバイ状態（スタンバイモード：「低」）、または電源コードを抜いた状態で行ってください。

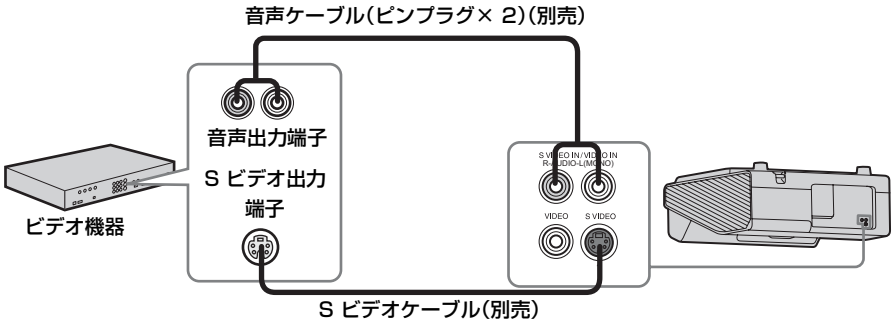
・タブレット端末／スマートフォンが USB ワイヤレス LAN モジュール IFU-WLM3（別売）経由でプロジェクターに無線接続する場合、プロジェクターの「無線 LAN 設定」の「無線 LAN 動作モード設定」は「アクセスポイント（手動）」にしてください。（33 ページ）
・アクセスポイントと接続する場合、ウェブブラウザにアクセスし、アクセスポイントの設定を入力し、接続してください。詳しくは、「プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う」（44 ページ）をご覧ください。

ビデオ機器との接続

VHS ビデオ、DVD プレーヤー、BD プレーヤーなどのビデオ機器との接続のしかたを入力別に説明します。

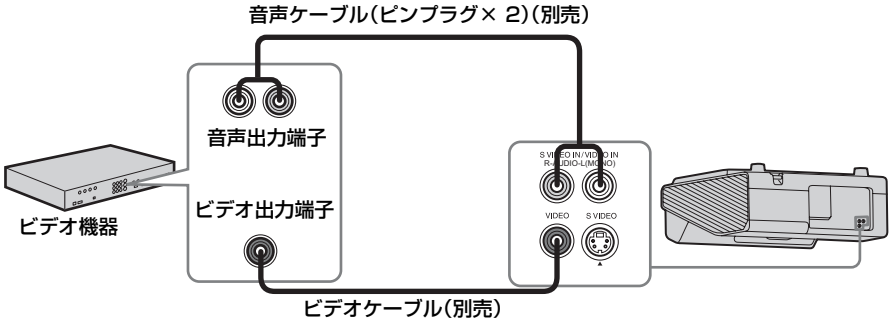
S ビデオ（S VIDEO IN）

S ビデオ出力端子付きのビデオ機器と接続します。



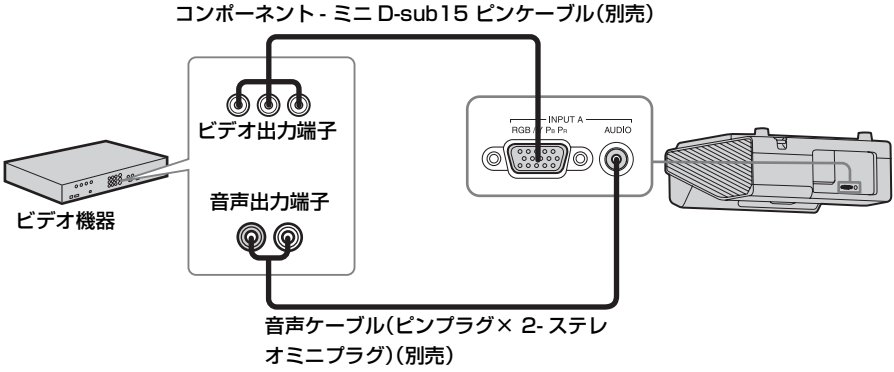
ビデオ（VIDEO IN）

ビデオ出力端子付きのビデオ機器と接続します。



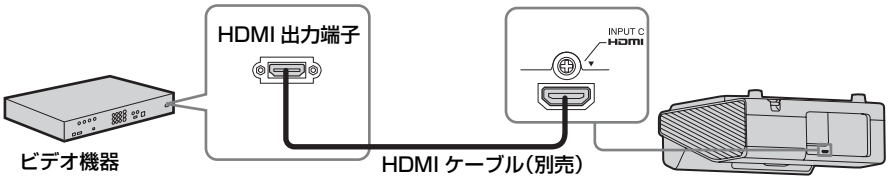
入力 A（INPUT A）

YPBPR 出力端子付きのビデオ機器と接続します。



入力 C（INPUT C）

HDMI 出力端子付きのビデオ機器と接続します。



ご注意

- HDMI で接続する機器は、HDMI ロゴを取得したものをご使用ください。
- HDMI ケーブルは、ケーブルタイプロゴの明記された High Speed ケーブルをお使いください。（ソニー製を推奨します。）
- 本機の HDMI 端子は、DSD（Direct Stream Digital）信号と CEC（Consumer Electronics Control）信号には対応していません。

マイクとの接続

マイク（ ）

マイクと接続します。

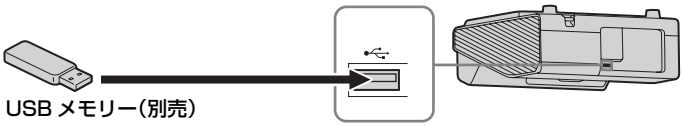
ご注意

マイクはダイナミックマイクのみ使用できます。

USB メモリーとの接続

USB 端子（タイプ A）（ ）

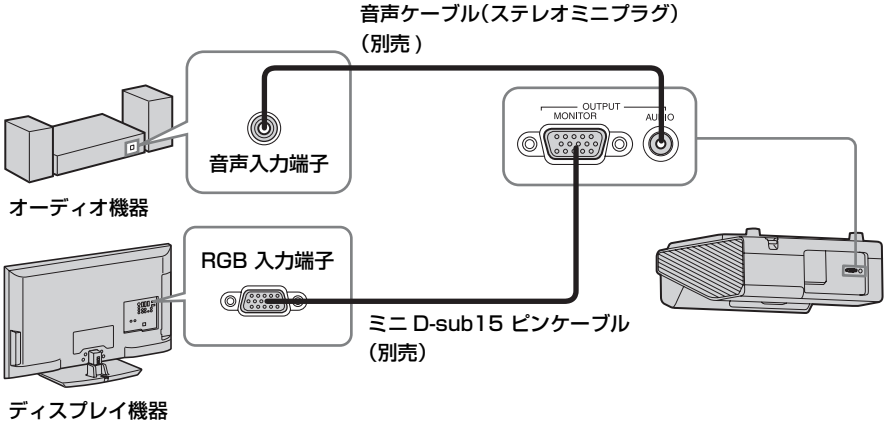
USB メモリーと接続します。（「USB Media Viewer 機能を利用する」（77 ページ））



外部モニター、オーディオ機器との接続

出力（OUTPUT）

投写中の映像または本機に入力された音声を、モニターなどのディスプレイ機器、またはアンプ内蔵スピーカーなどのオーディオ機器に出力することができます。



ご注意

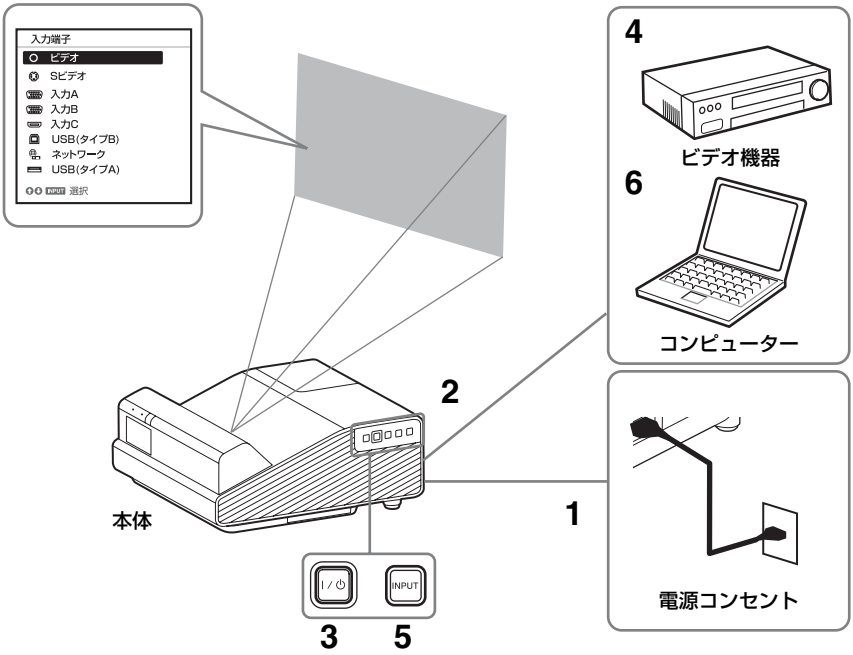
投写している映像または音声が出力されます。

映像を投写する

プロジェクター（本機）は、スクリーンまでの距離（投写距離）によって投写される映像の大きさが変わります。スクリーンサイズに合うように本機を設置してください。投写距離と投写される映像の大きさについて詳しくは、「投写距離とレンズシフト量」（101 ページ）をご覧ください。

ご注意

・超短焦点プロジェクターの特性上、投影する面に凹凸があると、画面が波打つ様に見えることがありますが、故障ではありません。
・画像を投影する際は平坦な面に投影してください。



1 電源コードをコンセントに差し込む。

2 再生する機器と接続する（9 ページ）。

3 I/⏻ ボタンを押して、電源を入れる。

4 再生する機器の電源を入れる。

5 投写する映像を選ぶ。

本機の INPUT ボタンを押すと、スクリーンに入力切換パレットが表示されます。INPUT ボタンをくり返し押すか、または ↑/↓ ボタンを押し、投写する映像を選びます。

6 コンピューター側で画面の出力先を外部ディスプレイに変更する。

出力先の切り換えは、コンピューターによって異なります。

（例）

Fn + F7

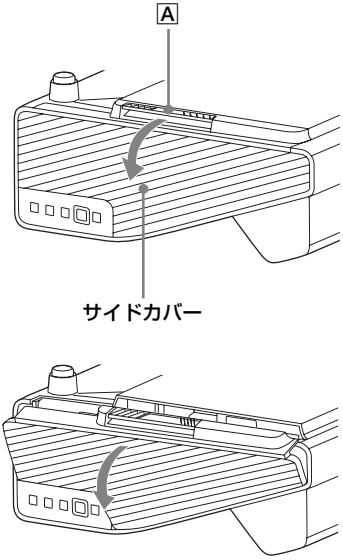
USB メモリー内の写真を投写する場合は、「USB Media Viewer 機能」をご確認ください（77 ページ）。USB 経由で動画と音声を再生する場合は、「USB 経由で動画と音声を再生する」をご確認ください（75 ページ）。ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能を利用して映像を投写する場合は、「ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能」をご確認ください（70 ページ）。

7 画面のフォーカス、サイズ、位置を調整する（18 ページ）。

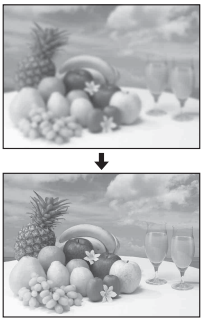
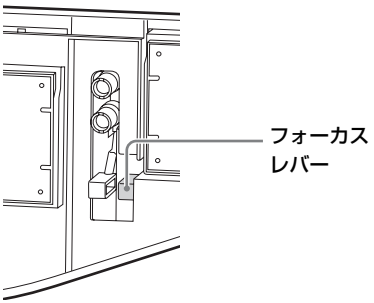
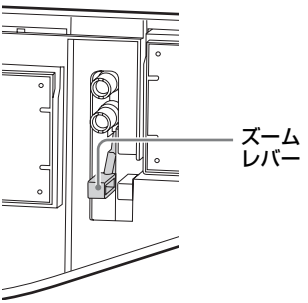
サイドカバーを開いて、レンズシフトダイヤル、フォーカスレバー、ズームレバーを調整します。

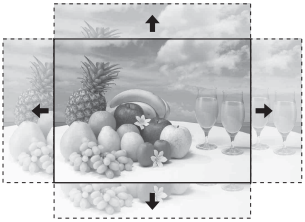
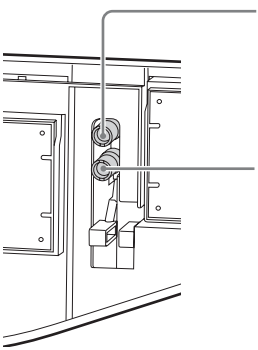
サイドカバーを開く

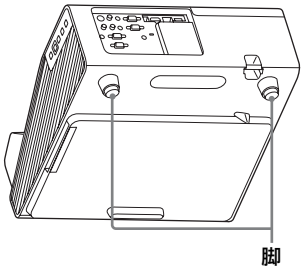
図のように A の部分を押してサイドカバーを矢印の方向に開けてください。



映像を調整する

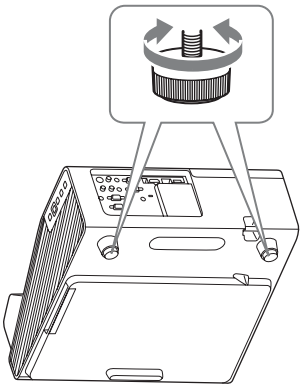
画面のフォーカス （フォーカス）	画面のサイズ （ズーム）
	
	

<table>
<tr><th>画面の位置
（レンズシフト）</th><th>画面の位置</th></tr>
<tr><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td> 

調整の際は、手あるいはドライバー等で各ダイヤルを回してください。</td><td> 
</td></tr>
</table>

脚による微調整

脚を回して高さを微調整することができます。
脚を使ってプロジェクターの傾きをかえることにより投写される画面の位置を調整します。



ご注意

・脚を調整するときは、手をはさまないようにしてください。
・脚を出した状態で、本機を上から強く押さえないでください。

投写画面の縦横比を変更する

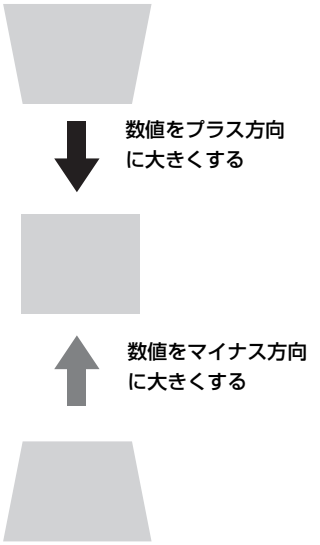
リモコンの ASPECT ボタンを押すと投写画面の縦横比が切り換わります。メニューの画面モードのアスペクトからも設定できます（26 ページ、28 ページ）。

台形になった画面を補正する（キーストーン補正）

画面が台形になった場合は手動でキーストーン補正を行ってください。

1 リモコンの KEYSTONE ボタンもしくは設置設定の V キーストーンを選び、調整メニューを表示する。

2 ↑/↓/←/→ で数値を調整する。数値がプラス方向に大きくなると画面の上側の幅が小さくなり、マイナス方向に大きくなると画面の下側の幅が小さくなります。



ご注意

- キーストーン補正は電子的な補正のため、画像が劣化する場合があります。
- レンズシフト調整の位置によっては、キーストーン補正を行うとオリジナル画像のアスペクト比（縦横比）が維持できない、または画像に歪みが生じる場合があります。
- キーストーン補正をした後にマウスモードを使用すると、インタラクティブペンとコンピューターのカーソルの位置がずれることがあります。その場合は、キャリブレーションを再度実行してください（VPL-SW635C のみ）。

パターンを表示する

リモコンの PATTERN ボタンを押すと、投写画面上に調整用パターンまたは格子パターンを表示することができます。繰り返し PATTERN ボタンを押すと、元の画面に戻ります。格子パターンは、コンピューターを使用せずにホワイトボードや黒板に文字や図形を描く際も、補助線として利用します。

ご注意

USB（タイプ A）、USB（タイプ B）、ネットワーク入力選択時は使用できません。

コンピューター信号入力時に投写画面のフェーズ、ピッチ、シフトを自動調整する（オートピクセルアライメント（APA））

リモコンの APA ボタンを押します。調整中にもう一度押すと、調整が取り消されます。画面モードからも実行できます（27 ページ）。機能設定のスマート APA で「入」を選ぶと、信号が入力されると自動的に APA を実行します（30 ページ）。

電源を切る

1 本体またはリモコンの I/⏻ ボタンを押す。

シャットダウンが開始され、電源がオフされます。10 秒以内に I/⏻ ボタンをもう一度押すとすぐに電源がオンの状態に復帰します。

ご注意

ランプ点灯後は、すぐに電源を切らないで下さい。ランプが点灯しないなど、故障の原因になるおそれがあります。

2 電源コードを抜く。

確認メッセージを出さずに電源を切るには

本体の I/⏻ ボタンを数秒間押し続けてください。（83 ページ）

ECO ゲージ

本機の ECO 機能が効果的に活用されたかを表す指標です。
（ECO 機能については、「ECO モードボタン」（7 ページ）、「省エネ設定」（33 ページ）をご覧ください。）ECO 機能の設定により省電力が達成された度合いによって、シャットダウン時に葉マークの枚数で表示されます。

メニューの操作のしかた

ご注意

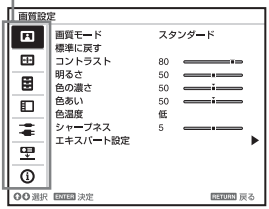
説明で使用している画面はイメージです。ご使用になっている機種によって異なることがあります。あらかじめご了承ください。

1 MENU ボタンを押して、メニュー画面を表示させる。

2 設定したい設定メニューを選ぶ。

↑/↓ ボタンを押して設定メニューを選び、→ ボタンまたは ENTER ボタンを押す。

設定メニュー

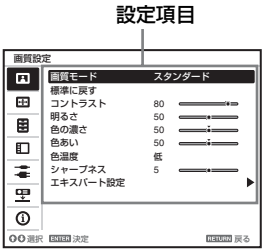


3 設定したい項目を選ぶ。

↑/↓ ボタンを押して項目を選び、→ ボタンまたは ENTER ボタンを押す。

← ボタンまたは RETURN ボタンを押すと、設定メニューの選択に戻ります。

設定項目



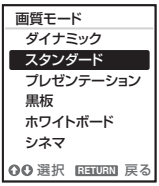
4 設定項目の設定や調整をする。

設定項目によって、設定のしかたが異なります。次の階層が表示された場合は、**3** の操作方法に従って設定したい項目を選び、ENTER ボタンを押して設定を確認してください。← ボタンまたは RETURN ボタンを押すと、設定項目の選択に戻ります。また、設定項目を設定、または調整中に RESET ボタンを押すと、お買い上げ時の値に戻ります。

ポップアップメニューの操作：

↑/↓/←/→ ボタンで項目を選びます。項目を選ぶとすぐに設定が反映されます。

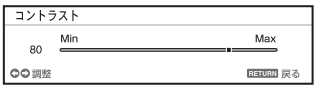
ただし、「表示言語」に限り、ENTER ボタンを押すまで設定は反映されません。



設定メニューの操作：

↑/↓ ボタンで項目を選びます。ENTER ボタンを押すと設定が確定し、元の画面に戻ります。

調整メニューの操作：
数値を大きくするときは ↑/→ ボタンを押し、数値を小さくするときは ↓/← ボタンを押します。ENTER ボタンを押すと設定が確定し、元の画面に戻ります。



5 MENU ボタンを押して、メニュー画面を消す。

しばらくの間操作をしないと、メニュー画面は自動的に消えます。

画質設定*1

入力信号ごとに画質を調整します。

項目	項目説明
画質モード	**ダイナミック**：明暗のはっきりしたメリハリのある鮮やかな画質になります。 **スタンダード**：なめらかな階調の自然な画質になります。 **プレゼンテーション***2：プレゼンテーションに適した明るい画質になります。 **黒板**：黒板投写に適した画質になります。 **ホワイトボード**：ホワイトボード投写に適した画質になります。 **シネマ**：映画鑑賞に適した画質になります。
標準に戻す*3	画質設定をお買い上げ時の値に戻します。
コントラスト	数値が大きくなると映像のメリハリが強くなり、小さくなると弱くなります。
明るさ	数値が大きくなると映像が明るくなり、小さくなると暗くなります。
色の濃さ*4、*5	数値が大きくなると映像の色が濃くなり、小さくなると薄くなります。
色あい*4、*5、*6	数値が大きくなると映像の色あいが緑がかり、小さくなると赤みがかかります。
色温度*7	**高／中／低**：高い温度ほど映像が青みがかった色調になり、低い温度ほど赤みがかった色調になります。
シャープネス*8	数値が大きくなると映像の輪郭がはっきりし、小さくなると柔らかくなります。
エキスパート設定	
ガンマモード*2、*9	**グラフィックス 1**：中間調が明るめに補正されるガンマ補正曲線を選びます。写真等の多彩な映像を明るい場所で投写する場合に適しています。 **グラフィックス 2**：中間調の再現性が高くなるガンマ補正曲線を選びます。写真等の多彩な映像を自然な諧調で再現します。 **テキスト**：白と黒の対比をはっきりさせるガンマ補正曲線を選びます。文字の多い映像に適しています。

ご注意

*1：VPL-SW635C の場合、PC フリーインタラクティブ機能のインタラクティブペンで描画したデータおよびホワイトボードモードには「色温度」のみが有効です。背景となる外部接続機器の映像に対しては、全ての設定項目が有効になります（38 ページ）。

*2：コンピューター信号入力時に選択できます。

*3：画質モードの値はお買い上げ時の設定に戻りません。

*4：ビデオ信号入力時に選択できます。

*5：「ビデオ」または「S ビデオ」の入力端子選択時にカラーバースト信号を含まない信号が入力された場合には、選択できません。

*6：アナログ TV 信号の場合は、カラー方式によっては選択できない場合があります。

*7：画質モードを「プレゼンテーション」または「黒板」以外に設定している場合に選択できます。

*8：「入力端子」を「USB（タイプ A）」にしている場合は、選択できません。

*9：画質モードを「黒板」に設定している場合は、選択できません。

画面モード*1

入力信号ごとに、投写画面のサイズ、位置、アスペクトなどを調整します。

項目		項目説明
アスペクト*2		投写している画面の縦横比が切り換わります。(28 ページ)
	VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：コンピューター信号入力時	**4：3**：縦横比を 4：3 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **16：9**：縦横比を 16：9 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **フル 1**：入力信号の縦横比を維持して、画面いっぱいに投写します。 **フル 2**：画面いっぱいに投写します。 **フル 3**：入力信号の縦横比を維持したまま、1280 × 720 ピクセルの範囲に縦または横いっぱいに投写します。 **ノーマル**：拡大処理をせずに入力信号の解像度のまま、画面の中心位置に投写します。
	VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：ビデオ信号入力時	**4：3**：縦横比を 4：3 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **16：9**：縦横比を 16：9 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **フル**：画面いっぱいに表示します。 **ズーム**：画像の中心部分を拡大して投写します。
	VPL-SX630：コンピューター信号入力時	**4：3**：縦横比を 4：3 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **16：9**：縦横比を 16：9 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **フル 1**：入力信号の縦横比を維持して、画面いっぱいに投写します。 **ノーマル**：拡大処理をせずに入力信号の解像度のまま、画面の中心位置に投写します。
	VPL-SX630：ビデオ信号入力時	**4：3**：縦横比を 4：3 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **16：9**：縦横比を 16：9 に固定して、画面いっぱいに投写します。 **ズーム**：画像の中心部分を拡大して投写します。

項目		項目説明
入力信号調整		コンピューター信号入力時の投写画面を調整します。画面の端が切れていたり、映りが悪い場合に調整します。
	APA*3、*4	ENTER ボタンを押すと画面が最適になるように自動で調整します（6 ページ）。
	フェーズ *3	入力信号と表示画素の位相（フェーズ）を調整します。一番くっきり見える数値に設定してください。
	ピッチ *3、*6	数値が大きくなると水平方向の表示画素の幅（ピッチ）が大きくなり、小さくなると幅が小さくなります。
	シフト *5	**H（水平）**：数値が大きくなると画面が右に、小さくなると左に移動します。 **V（垂直）**：数値が大きくなると画面が上に、小さくなると下に移動します。

ご注意

*1：VPL-SW635C の場合、PC フリーインタラクティブ機能のインタラクティブペンで描画したデータおよびホワイトボードモードには作用しません。背景となる外部接続機器の映像に対してのみ有効になります（38 ページ）。

*2：・営利目的、また公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどにおいて、アスペクト機能などを利用して、面積の分割表示や圧縮、引き伸ばしなどを行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますのでご注意ください。

・入力信号によって、「アスペクト」の項目または一部の設定項目を設定できない場合があります。また、異なるアスペクトを設定しても同じ映像になる場合があります。

・選択した項目によって画面の一部が黒で表示される場合があります。

*3：RGB 入力端子（入力 A、入力 B）から入力されるコンピューター信号入力時に選択できます。

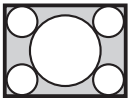
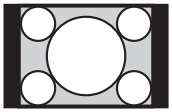
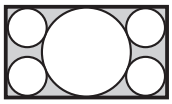
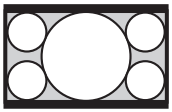
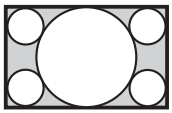
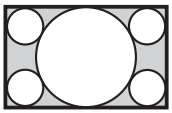
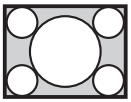
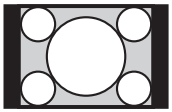
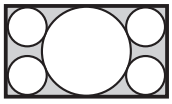
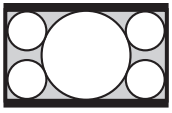
*4：投写している画像の周辺領域に黒の部分が多く含まれていると正しく働かず、画像の一部が表示されないことがあります。また、入力信号によっては、最適にならない場合があります。その場合は手動で「フェーズ」、「ピッチ」、「シフト」を調整してください。

*5：RGB /Y P_B P_R 入力端子（入力 A）から入力されるコンピューター信号入力時、またはビデオ信号入力時に選択できます。

*6：調整した値は、「APA」（27 ページ）または「スマート APA」（30 ページ）を実行すると、工場出荷時の値に戻ります。調整した値を続けて使用したい場合は、「スマート APA」を「切」にしてください。

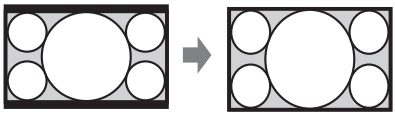
アスペクトについて

VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620

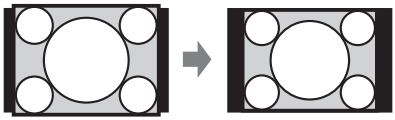
	入力信号	おすすめの設定値とそのときに投写される映像
コンピューター信号	「4：3」 	「フル 1」*1 *2 *3 
	「16：9」 	「フル 1」*1 *2 *3 
	「16：10」 	「フル 1」*3 
ビデオ信号	「4：3」 	「4：3」*4 *5 
	「16：9」 	「16：9」 

*1 :「ノーマル」を選ぶと、拡大処理をせずに映像信号の解像度のままで表示します。

*2 :「フル 2」を選ぶと、縦横比を無視して画面いっぱいに投写します。

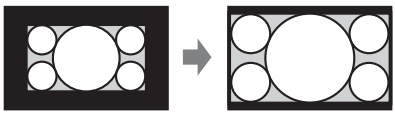


*3 :16：9 の信号で、スクリーン表示位置を調整した場合、4：3 の信号を入力すると、上下がスクリーンからはみ出すことがあります。そのような場合は、「フル 3」を選択してください。

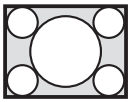
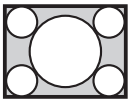
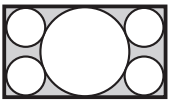
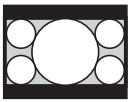
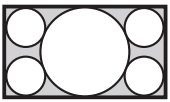
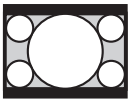
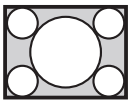
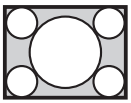
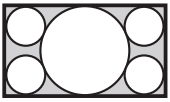
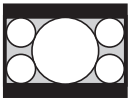


*4 :入力信号によっては、下のように表示される場合があります。この場合は「16：9」を選んでください。

*5 :入力信号によっては、下のように表示される場合があります。この場合は「ズーム」を選んでください。



VPL-SX630

	入力信号	おすすめの設定値とそのときに投写される映像
コンピューター信号	「4：3」 	「フル 1」*1 
	「16：9」 	「フル 1」*1 *2 
	「16：10」 	「フル 1」*1 *2 
ビデオ信号	「4：3」 	「4：3」*3 
	「16：9」 	「16：9」*4 

*1：「ノーマル」を選ぶと、拡大処理をせずに映像信号の解像度のままで表示します。

*2：「4：3」を選ぶと、縦横比を無視して画面いっぱいに投写します。

*3：入力信号によっては、下のように表示される場合があります。この場合は「16：9」を選んでください。

*4：入力信号によっては、下のように表示される場合があります。この場合は「ズーム」を選んでください。

機能設定

本機が対応しているさまざまな機能を設定します。

項目	項目説明
音量	数値が大きくなると音量が大きくなり、小さくなると音量が小さくなります。
マイク音量	マイク音量を調整します。*2
スピーカー	**入／切：**「入」を選ぶと、本機のスピーカーから音が出ます。スピーカーから音を出したくない場合は、「切」を選んでください。
スマート APA	**入／切：**「入」を選ぶと、信号が入力されると自動的に APA を実行します。*1
CC ディスプレイ	**CC1 ／ CC2 ／ CC3 ／ CC4 ／ Text1 ／ Text2 ／ Text3 ／ Text4：**表示する CC（クローズドキャプション）のサービス（字幕または文字情報）を選択します。 **切：**CC を表示しません。
ランプタイマー初期化	ランプを交換したときにランプタイマーを初期化します（90 ページ）。
スタートアップイメージ	**入／切：**「入」を選ぶと起動時にスタートアップイメージが表示されます。
インタラクティブ（VPL-SW635C のみ）	
キャリブレーション	**自動／手動（メイン）／手動（サブ）：**PC フリーインタラクティブ機能（61 ページ）とマウスモード機能（68 ページ）のキャリブレーションを実行します。「自動」を選ぶと、キャリブレーションを自動的に実行します。「手動（メイン）」を選ぶと、メインペンの手動キャリブレーションを実行します。「手動（サブ）」を選ぶと、サブペンの手動キャリブレーションを実行します。*3、*4、*5
PC フリーインタラクティブ	**オン／オフ：**コンピューターとプロジェクターが USB ケーブルで接続されていないとき、「オン」を選ぶと、ツールバーが表示されます。「オフ」を選ぶと、ツールバーは表示されず、PC フリーインタラクティブ機能は使用できません。*6
タイプ B USB 割り当て	**オフ / 入力 A/ 入力 B/ 入力 C/ ネットワーク /USB（タイプ B）：**Interactive Presentation Utility 2 またはマウスモードを使用するときの映像を選びます。入力切替パレットで選択されている、投写中の映像の「入力端子」（16 ページ）と同じ入力端子を選ぶと、その映像の上で Interactive Presentation Utility 2 または、マウスモードを使用できます。 「オフ」を選ぶと、Interactive Presentation Utility 2 とマウスモードは使用できません。

項目	項目説明
ホワイトボードデータ	**取り出し／本体へ保存：**「取り出し」を選ぶと USB ケーブルを経由して、ホワイトボードモードでプロジェクター本体に保存したデータをコンピューターに移すことができます。「本体へ保存」を選ぶと、PC フリーインタラクティブ機能のメインツールバーの保存ボタンをクリックすることにより、投写中のホワイトボードモードの描画データをプロジェクター本体に保存できます。*7 *8

ご注意

*1：RGB 入力端子（入力 A、入力 B）からコンピューター信号が入力された時に APA が実行されます。

*2：音量の設定値に基づき、マイク音量の最大値が決定されます。

*3：実行開始前に、「キャリブレーションを実施しますか？」とメッセージが表示されます。「はい」を選ぶと、キャリブレーションを実行します。

*4：コンピューターで Interactive Presentation Utility 2 を起動している場合は、Interactive Presentation Utility 2 のキャリブレーションを実行してください。

*5：キャリブレーション実行中に、メニューを表示したり、または警告や注意などのメッセージが表示された場合は、キャリブレーションは中止されます。
また、キャリブレーションの操作を 20 秒以上中断した場合も、手動のキャリブレーションは中止されます。

*6：PC フリーインタラクティブ機能を使用中に、メニューを表示させると、PC フリーインタラクティブ機能は一時的に使用できなくなり、ツールバーおよび描画データが非表示になります。また、メニューを非表示にすると、PC フリーインタラクティブ機能を再度使用できます。警告や注意などのメッセージが表示された場合、PC フリーインタラクティブ機能は使用できません。PC フリーインタラクティブ機能の設定については、61 ページをご覧ください。

*7：プロジェクター内部のホワイトボードデータにアクセスしているとき、「本体へ保存」を選ぶと、ファイルが破損するおそれがあります。ホワイトボードデータにアクセスしているときは、操作しないでください。

*8：コンピューターとプロジェクターが USB ケーブルで接続されていても、「取り出し」が選ばれている場合は、ホワイトボードデータをプロジェクターに保存できません。

操作設定

メニューやリモコンによる操作のための機能を設定します。

項目	項目説明
表示言語	メニューやメッセージなどに使用する言語を設定します。
画面表示	**入**：すべての画面表示が有効になります。 **切**：メニューの表示、警告メッセージ、お知らせなど以外の画面表示が出なくなります。
セキュリティロック *1	**入／切**：パスワードを設定し、利用者を制限することができます。セキュリティロックの設定手順は以下のとおりです。 **1** 「入」を選び、ENTER ボタンを押して設定画面を表示する。 **2** MENU、↑/↓/←/→、ENTER の 6 つのボタンを使用してパスワードを入力する。（出荷時は“ENTER, ENTER, ENTER, ENTER”が設定されています。） **3** MENU、↑/↓/←/→、ENTER の 6 つのボタンを使用して新しいパスワードを入力する。 **4** 確認のため、もう一度新しく設定したパスワードを入力する。 パスワードは電源コードの抜き差しをしたあと、電源を入れたときに入力します。 「切」を選ぶとセキュリティロックを解除できます。このときも、パスワードの入力が必要です。 パスワードの入力に 3 回続けて失敗すると、これ以降の操作ができません。その場合は、I/⏻ ボタンを押して一度スタンバイにし、もう一度電源を入れ直してください。
操作キーロック	**入／切**：「入」を選ぶと、操作部での操作ができなくなります。ただし、「入」の場合でも以下の操作はできます。 ・スタンバイ状態で、I/⏻ ボタンを約 10 秒押す。 ➔電源が入ります。 ・電源が入った状態で、MENU ボタンを約 10 秒押す。 ➔「操作キーロック」が「切」になり、操作部の操作が可能になります。

ご注意

*1 : パスワードが分からなくなった場合、本機を使用することができなくなりますので充分にご注意ください。ソニーの相談窓口にお問い合わせいただくと、パスワードをご案内いたします。その際は、本機のシリアル番号とお客様の確認が必要になります。（確認方法は、販売国／地域によって異なります。）

接続／電源設定

接続、電源に関わる機能を設定します。

項目		項目説明
有線 LAN 設定		
	IP アドレス設定[*9]	**自動（DHCP）**：ルーターなどの DHCP サーバー機能により、自動でネットワークの設定を割り当てます。 **手動**：手動でネットワークを設定します。
無線 LAN 設定[*10]		
	無線 LAN 接続[*8]	**入／切**：USB ワイヤレス LAN モジュール（別売）の電波出力の有効／無効を設定します。
	無線 LAN 動作モード設定[*14]	**アクセスポイント（オート）／アクセスポイント（手動）／クライアント**[*11]：無線 LAN の動作モードを変更します。[*12]
入力 A 信号種別		**オート／コンピューター／ビデオ GBR ／コンポーネント**：「オート」を選ぶと、入力 A を選んでいるときの映像信号の種別を自動的に選びます。[*1]
省エネ設定		
	ランプモード	**高／標準／低／オート**[*5] [*7] [*15]：「高」を選ぶと、映像は明るくなり、消費電力が高くなります。「低」を選ぶと、消費電力が最も少なくなりますが、映像は暗くなります。「オート」を選んだ場合は、入力された映像により輝度が自動調整されます。暗い映像は、輝度を調整して投写することで、省電力につながります。一方、明るい映像は、輝度を調整せず明るく投写します。
	輝度一定	**入 / 切**：ランプモードが「高」のときに設定できます。光源を一定の輝度で出力します。[*13]
	オートパワーセービング	
	無信号時設定[*16]	**ランプオフ**：本体に信号が入力されない状態が約 10 分続いた場合に、自動的にランプを消灯して消費電力を少なくすることができます。信号が入力されるか、ボタンを操作すると再びランプが点灯します。ランプオフ状態では、ON/STANDBY インジケーターはオレンジ色に点灯します（82 ページ）。 **スタンバイ**[*6]：本体に信号が入力されない状態が約 10 分続くと自動的に電源が切れ、スタンバイ状態になります。 **切**：無信号時設定機能を無効にします。

項目		項目説明
	信号無変化時設定[*17]	**ランプ減光**[*4] [*5] [*7]：本体に入力されている映像に変化が無い状態が続いた場合（約 10 秒）に、ランプモードの設定からランプ出力の低減（約 10%～ 15%[*3]）を徐々に行います。また、任意の設定時間（**5 分 /10 分 /15 分 /20 分 / デモ**）の入力信号無変化検出により、自動的に約 30%のランプ出力へ徐々に減光します。また、減光中は「ランプ減光」のお知らせが表示されます。「デモ」を選択した場合、約 40 秒程度で減光を開始します。信号変化または、操作（リモコン / 操作部）を検出すると、元の明るさに戻ります。 **切**：信号無変化時設定機能を無効にします。
	スタンバイモード[*2]	**標準**／**低**：「低」を選ぶと、スタンバイ時の消費電力が少なくなります
ダイレクトパワーオン		**入**／**切**：「入」を選ぶと、電源コードをコンセントに接続したときに、スタンバイ状態を経ずに電源が「入」になるようになります。電源を切るときは、ダイレクトパワーオンの設定に関わらず、スタンバイを経ずに電源コードを抜くことができます。

ご注意

*1：入力される映像信号によっては、最適にならない場合があります。その場合は、接続している機器に応じて手動で設定してください。

*2：スタンバイモードが「低」の場合、スタンバイ時にネットワークおよびネットワークコントロール機能は使用できなくなります。

*3：ランプモードの設定により異なります。

*4：ランプ減光は、時間をかけて徐々に行われるので、減光されていることに気づかない場合があります。そのため、入力信号が変化して元の明るさに戻ったときに、減光されていたことに気づく場合があります。

*5：ランプ点灯後、約 3 分間はこのモードは機能しません。また、入力されている映像により信号変化 / 無変化を検出できない場合があります。減光した状態で使用を続けた場合、一定時間毎に明るくなる場合がありますが故障ではありません。無信号時設定が有効の場合は、その動作が優先されます。

*6：無入力信号時に自動的にスタンバイ状態にさせたくない場合には、設定を「切」にしてください。.

*7：「USB（ タイプ A)」、「USB（ タイプ B)」または「ネットワーク」の入力端子を選んでいるときは動作しません。その場合、ランプモードは「標準」同等になります。

*8：無線 LAN 設定の反映には約数十秒かかります。

*9：IP アドレスを手動で設定する場合は、一度、「手動」に変更し「適用」ボタンを押してから IP アドレスを入力してください。

*10：タブレット端末／スマートフォンから画像やファイルを送信して表示する（74 ページ）場合、「無線 LAN 動作モード設定」を「アクセスポイント（オート）」もしくは「アクセスポイント」（手動）」に設定すると、無線のアクセスポイントとして USB ワイヤレス LAN モジュール（IFU − WLM3（別売））を使用できます。

*11：「アクセスポイント（手動）」の工場出荷時の設定は以下のとおりです。
SSID：VPL + 有線 LAN の MAC アドレス
セキュリティ方式：WEP（64bit）
パスワード：sony1
「アクセスポイント（手動）」の設定を変更する場合は、ウェブブラウザで変更してください。詳しくは、「プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う」（44 ページ）をご覧ください。
設定を「アクセスポイント（手動）」にした場合、ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能を使用する（70 ページ）ときに「手動接続」を選択し、接続してください。

*12：「クライアント」の設定は、ウェブブラウザで変更してください。詳しくは、「プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う」（44 ページ）を参照してください。

*13：輝度一定モードは、本機使用初期から設定すると、最大約 2,000 時間有効です。その後、自動的に無効になります。使用条件により、有効時間や明るさが変わることがあります。

*14：無線 LAN 接続ができない場合は、Setup ページの Apply ボタンをもう一度押し、接続の確認をしてください（「プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う」（44 ページ））。

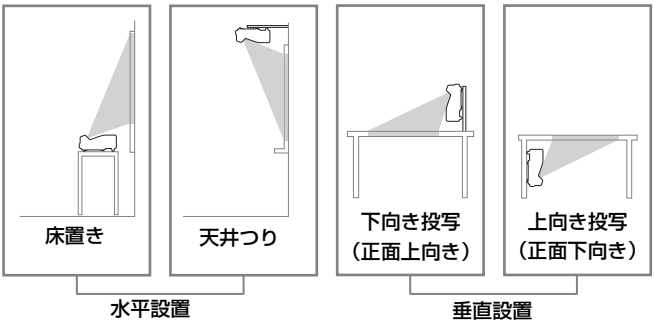
*15：VPL-SW635C の場合、「PC フリーインタラクティブ」が「オン」になっているときは動作しません。その場合、「ランプモード」は「標準」同等になります（38 ページ）。

*16：VPL-SW635C の場合、「PC フリーインタラクティブ」が「オン」になっているときは動作しません。その場合、「無信号時設定」は「切」同等になります（38 ページ）。

*17：VPL-SW635C の場合、「PC フリーインタラクティブ」が「オン」になっているときは動作しません。その場合、「信号無変化時設定」は「切」同等になります（38 ページ）。

設置設定

本機を設置するときに使われる機能を設定します。

項目	項目説明
画像反転	**上下左右／左右／上下／切**：設置方法に応じて映像を水平または垂直方向に反転します。*5
設置角度	**床置き／天井つり／下向き投写／上向き投写／画像反転連動**：設置角度に応じて冷却設定を変更します。「画像反転連動」を選ぶと、「画像反転」の設定に基づいて冷却設定を変更します。*1 誤った設定のままで使用すると、部品の信頼性などに影響を与えるおそれがあります。 
高地モード*2	**入／切**：高地（海抜 1500 m 以上）で使用する場合に「入」に設定してください。誤った設定のままで使用すると、部品の信頼性などに影響を与えるおそれがあります。
V キーストーン*3 *4	数値がプラス方向に大きくなると画面の上側の幅が小さくなり、マイナス方向に大きくなると画面の下側の幅が小さくなります。

ご注意

*1：「画像反転連動」は、水平設置時のみ選択してください。垂直設置の場合は、本機の設置方向に合わせて、必ず「下向き投写」または、「上向き投写」を選択してください。（イラスト参照）

*2：高地モードを「入」にした場合、ファンの回転数が上がり、音が少し大きくなります。

*3：キーストーン補正は電子的な補正のため、画像が劣化する場合があります。

*4：VPL-SW635C の場合、キーストーン補正をした後にマウスモードを使用すると、インタラクティブペンとマウスの位置がずれることがあります。その場合は、キャリブレーションを再度実行してください。

*5：「左右」または「上下」を選んだ場合、インタラクティブ機能は使用できません。

ⓘ 情報

ランプの使用時間など、本機の情報を確認できます。

項目	項目説明
モデル名	本機のモデル名を表示します。
シリアル No.	本機のシリアル番号を表示します。
fH（水平周波数）／fV（垂直周波数）*1	現在入力されている信号の水平周波数／垂直周波数を表示します。
信号の種類	現在入力されている信号の種類を表示します。
ランプ使用時間	これまでのランプの使用時間を表示します。

ご注意

*1：入力信号によって表示されない場合があります。

PC フリーインタラクティブ機能使用時のご注意（VPL-SW635C のみ）

PC フリーインタラクティブ機能使用時、画質設定および画面モードの項目は、背景として使用する外部接続機器の映像には作用しますが、インタラクティブペンで描画したものおよびホワイトボードモードには作用しません。詳しくは、以下の表を参照してください。

項目			描画したデータおよびホワイトボードモードに対して有効（○）/ 無効（△）
画質設定（24ページ）	画質モード		△
	標準に戻す		△
	コントラスト		△
	明るさ		△
	色の濃さ		△
	色あい		△
	色温度		○
	シャープネス		△
	エキスパート設定	ガンマモード	△
画面モード（26ページ）	アスペクト		△
	入力信号調整	APA	△
		フェーズ	△
		ピッチ	△
		シフト	△

また、「PC フリーインタラクティブ」を「オン」にすると、以下の項目も制限されます。

項目			内容
接続／電源設定（33ページ）	省エネ設定	ランプモード	「オート」選択時は、「標準」同等になります。
	オートパワーセービング	無信号時設定	「オフ」以外を設定しているときでも、「オフ」同等になります。
		信号無変化時設定	

ネットワーク機能を利用する

プロジェクターをネットワークに接続することで、以下のことができます。
・ウェブブラウザを利用してプロジェクターの現在の状況を確認する。
・ウェブブラウザを利用してプロジェクターを遠隔操作する。
・プロジェクターからメールレポートを受け取る。
・プロジェクターのネットワーク設定を行う。
・アプリケーションを使用し、プロジェクターの投写画面上にメッセージを表示する。
・各種ネットワーク監視、制御プロトコル（Advertisement 、PJ Talk、PJ Link、AMX DDDP （Dynamic Device Discovery Protocol)、Crestron RoomView）に対応。

ご注意

・使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者から製品にアクセスされる可能性があります。本機をネットワークに接続する際には、セキュアなネットワークであることをご確認の上ご使用ください。
・利用者が気付かないうちに、電波が届くところから意図せぬ第三者に通信内容を盗み見られてしまうおそれがあります。無線 LAN 通信を利用する際は、通信内容を保護するために、適切なセキュリティ対策をしてください。
・セキュリティの面から、製品をネットワークに接続してご使用になる際は、ブラウザでコントロール画面にアクセスし、アクセス制限設定を工場出荷時の設定値から変更して設定することを強く推奨します。(40 ページ)
また、定期的にパスワードを変更することを推奨します。
・設定作業中または設定作業後のブラウザで他のサイトを閲覧しないでください。ブラウザにログインした状態が残りますので、意図しない第三者の使用や悪意のあるプログラムの実行を防ぐために、設定作業が完了したら必ずブラウザを終了してください。
・説明で使用している画面はイメージです。ご使用になっている機種によっては異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
・使用できるウェブブラウザは、Internet Explorer 8/9/10 です。
・表示可能言語は英語のみです。
・コンピューターからプロジェクターにアクセスする際、ブラウザの設定が「プロキシサーバーを使用する」になっている場合は、チェックマークをクリックし、プロキシサーバーを使用しない設定にしてください。
・メッセージを表示するには、専用のアプリケーション Projector Station for Network Control （バージョン 1.1 以降）が必要です。Projector Station for Network Control に関しては、販売店へお問い合わせください。

ウェブブラウザでプロジェクターのコントロール画面を開く

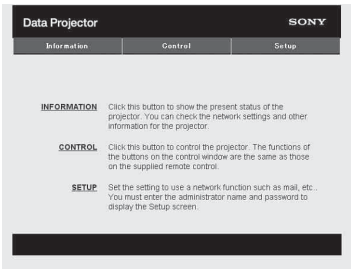
1 LAN ケーブルをつなぐ（11 ページ）。

2 プロジェクターのネットワーク設定を行う。

「接続／電源設定」の「有線 LAN 設定」でプロジェクターのネットワーク設定を行ってください（33 ページ）。

3 ウェブブラウザを起動し、アドレス欄に以下を入力し <ENTER> キーを押す。

http://xxx.xxx.xxx.xxx
（xxx.xxx.xxx.xxx：プロジェクターの IP アドレス）
プロジェクターの IP アドレスは、「接続／電源設定」の「有線 LAN 設定」で確認できます（33 ページ）。
ブラウザに以下のようなコントロール画面が表示されます。

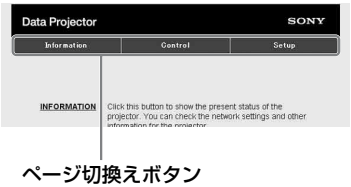


一度ネットワーク設定を行えば、次回からは手順 **3** の操作だけでコントロール画面を表示できます。

コントロール画面の操作方法

ページを切り換える

ページ切換えボタンをクリックして、設定したいページを表示してください。



ページ切換えボタン

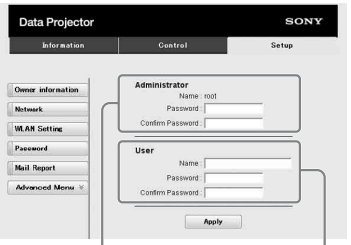
アクセス制限を設定する

各ページの利用者を次のように制限できます。

Administrator：すべてのページにアクセス可能。

User：Setup ページ以外にアクセス可能。

Setup ページ内の Password ページから設定します。
初めて Setup ページにアクセスするときは、User の Name に「root」、Password に「Projector」を入力してアクセスしてください。
なお、Administrator の Name は「root」に固定されています。



「管理者」権限の入力エリア

「ユーザー」権限の入力エリア

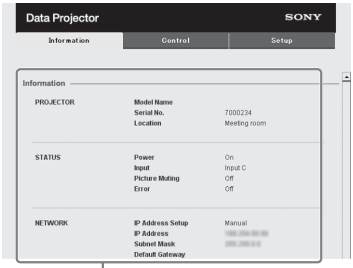
パスワードを変更する場合は、設定されているパスワード（*****）を削除してから、新しいパスワードを入力してください。

ご注意

パスワードを忘れた時は、ソニーの相談窓口へお問い合わせください。

プロジェクターの状態を確認する

Information ページを開くと、プロジェクターの現在の状態を確認できます。



情報エリア

プロジェクターを操作する

Control ページからプロジェクターを操作します。

操作エリア

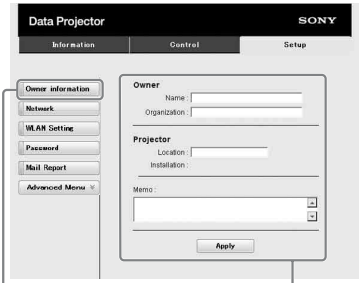
各ボタンの働きは、リモコンのボタンと同じになります。

メールレポート機能を利用する

Setup ページからメールレポート機能を設定します。
Setup ページで入力した値は、Apply ボタンを押すまで適用されません。

1 メールレポートに記載される所有者情報を入力する。

Owner information ボタンを押し、メールレポートに記載される所有者情報を入力します。



Owner information ボタン

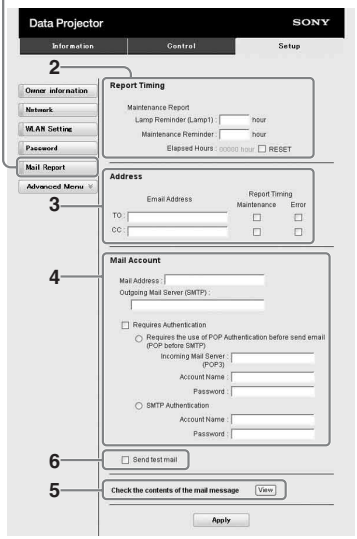
2 メールレポートのタイミングを設定する。

Mail Report ボタンを押し、Mail Report ページを開く。

Lamp Reminder（Lamp1）：ランプ交換のためのレポートタイミングを設定します。本体側でランプタイマー初期化を実行するとリセットされます。（30 ページ）

Maintenance Reminder：任意のメンテナンスのレポートタイミングを設定します。RESET チェックボックスをチェックし、Apply ボタンを押すとリセットされます。

Mail Report ボタン



3 送信先メールアドレスを入力する。

Email Address に送信先のメールアドレスを入力し、発行するメールレポートの Report Timing チェックボックスにチェックをします。

4 メールレポートを送信するためのメールアカウントを設定する。

Mail Address：メールアドレスを入力します。

Outgoing Mail Server (SMTP)：送信メールサーバー（SMTP）のアドレスを入力します。

Required Authentication：メール送信に認証が必要な場合にチェックします。

Requires the use of POP Authentication before send email（POP before SMTP）：メール送信時に POP 認証を行う場合にチェックします。

Incoming Mail Server (POP3)：POP3 認証で使用される受信メールサーバー（POP3）のアドレスを入力します。

Account Name：アカウント名を入力します。

Password：パスワードを入力します。

SMTP Authentication：メール送信時に SMTP 認証を行う場合にチェックします。

Account Name：アカウント名を入力します。

Password：パスワードを入力します。

5 メールレポートの内容を確認する。

View ボタンを押すと、送信されるメールレポートの内容が表示されます。

6 テストメールを送信する。

チェックボックスにチェックを入れて Apply ボタンを押すと、設定した送信先アドレスにテストメールが送信されます。

ご注意

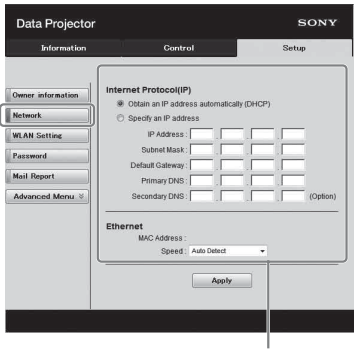
・Outbound Port25 Blocking を行っているネットワークでは SMTP サーバーには接続できないためメールレポート機能を使用することはできません。

・文字列が入力できるボックスに「'」「"」「¥」「&」「<」「>」の 6 文字は使用できません。

プロジェクターの有線 LAN ネットワーク設定を行う

Setup ページで有線 LAN ネットワーク機能を設定します。
Setup ページで入力した値は、Apply ボタンを押すまで適用されません。

1 Network ボタンを押し、Network ページを開く。



Network ボタン　　有線 LAN 設定エリア

2 Internet Protocol を設定する。

Obtain an IP address automatically：ルーターなどの DHCP サーバー機能により、自動でネットワークの設定を割り当てます。IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Primary DNS、Secondary DNS には、DHCP サーバーにより割り当てられた値が表示されます。

Specify an IP address：手動でネットワークを設定します。

– **IP Address**：プロジェクターの IP アドレスを入力します。
– **Subnet Mask**：プロジェクターのサブネットマスクを入力します。
– **Default Gateway**：プロジェクターのデフォルトゲートウェイを入力します。
– **Primary DNS**：プロジェクターのプライマリ DNS サーバーを入力します。
– **Secondary DNS**：プロジェクターのセカンダリ DNS サーバーを入力します。

3 Ethenet を設定する。

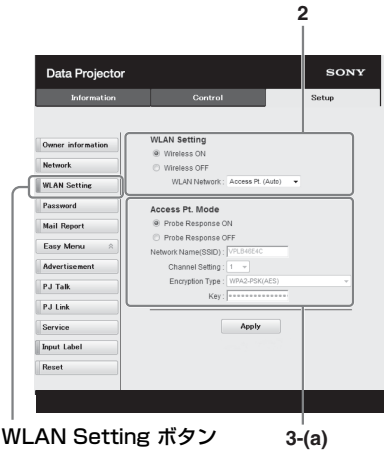
MAC Address：プロジェクターの MAC アドレスが表示されます。

Speed：プロジェクターのネットワークの速度を選択します。

プロジェクターの無線 LAN ネットワーク設定を行う

Setup ページで無線 LAN ネットワーク機能を設定します。
Setup ページで入力した値は、Apply ボタンを押すまで適用されません。
無線 LAN ネットワーク機能のご使用には、USB ワイヤレス LAN モジュール IFU-WLM3（別売）が必要です。

1 WLAN Setting ボタンを押し、WLAN Setting ページを開く。



2 WLAN Setting で USB ワイヤレス LAN モジュールの電波出力の有効または無効を設定する。

Wireless ON：USB ワイヤレス LAN モジュールの電波出力を有効にします。

Wireless OFF：USB ワイヤレス LAN モジュールの電波出力を無効にします。

WLAN Network：USB ワイヤレス LAN モジュールのモード設定を行います。

項目	説明
Access Pt.（Auto）	USB ワイヤレス LAN モジュールをアクセスポイントとして動作させ、無線 LAN に関する設定項目は自動で設定します。

項目	説明
Access Pt.（Manual）	USB ワイヤレス LAN モジュールをアクセスポイントとして動作させ、無線 LAN に関する設定項目は手動で設定します。
Client	USB ワイヤレス LAN モジュールをクライアントとして動作させます。

3 （a）Access Pt. Mode 時の設定を入力する。

USB ワイヤレス LAN モジュールをアクセスポイントとして動作させた場合、アクセスポイントに関する設定項目を設定します。

Probe Response ON：クライアントからのプローブ要求に対して、プローブ応答をします。

Probe Response OFF：クライアントからのプローブ要求に対して、プローブ応答をしません。

Network Name（SSID）：WLAN Network が「Access Pt.（Auto）」の場合、アクセスポイントの SSID が表示されます。また、「Access Pt.（Manual）」の場合は、アクセスポイントの SSID を入力します。

Channel Setting：WLAN Network が「Access Pt.（Auto）」の場合、アクセスポイントのチャンネルが表示されます。また、「Access Pt.（Manual）」の場合は、アクセスポイントのチャンネルを選択します。

Encryption Type：WLAN Network が「Access Pt.（Auto）」の場合、アクセスポイントのセキュリティ方式が表示されます。また、「Access Pt.（Manual）」の場合は、 アクセスポイントのセキュリティ方式を以下の中から選択します。

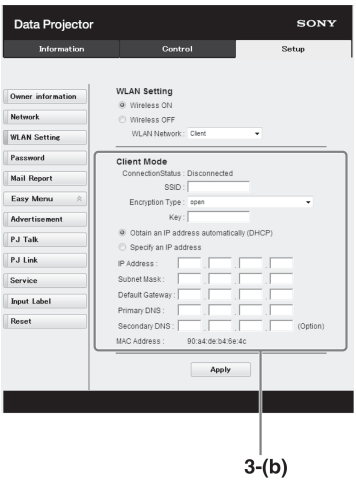
Encryption Type	説明
Open	アクセスポイントのセキュリティ方式をオープンシステム認証方式にします。
WEP 64bit	アクセスポイントのセキュリティ方式を 64bit の WEP 方式にします。
WEP 128bit	アクセスポイントのセキュリティ方式を 128bit の WEP 方式にします。
MIX（WPA-PSK/WPA2-PSK（TKIP/AES））	アクセスポイントのセキュリティ方式を MIX 方式にします。（WPA-PSK（TKIP/AES）と WPA2-PSK（AES）の両方のセキュリティ方式に対応します。）
WPA2-PSK（AES）	アクセスポイントのセキュリティ方式を WPA2-PSK（AES）方式にします。

Key：選択した Encryption Type に応じ、アクセスポイントのセキュリティ方式のパスワードを入力します。

Encryption Type	パスワード
Open	パスワードは入力できません。
WEP 64bit	5 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。
WEP 128bit	13 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。
MIX（WPA-PSK/WPA2-PSK（TKIP/AES））または WPA2-PSK（AES）	8 から 63 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。

(b) Client Mode 時の設定を入力する。

USB ワイヤレス LAN モジュールをクライアントとして動作させた場合、クライアントに関する設定項目（接続対象のアクセスポイントの設定項目）を設定します。



Connection Status：接続対象のアクセスポイントとの接続状態が表示されます。

ESSID：接続対象のアクセスポイントの ESSID を入力します。

Encryption Type：接続対象のアクセスポイントのセキュリティ方式を選択します。

Encryption Type	説明
Open	アクセスポイントのセキュリティ方式をオープンシステム認証方式にします。
WEP 64bit	アクセスポイントのセキュリティ方式を 64bit の WEP 方式にします。
WEP 128bit	アクセスポイントのセキュリティ方式を 128bit の WEP 方式にします。
MIX（WPA-PSK/WPA2-PSK（TKIP/AES））	アクセスポイントのセキュリティ方式を MIX 方式にします。（WPA-PSK（TKIP/AES）と WPA2-PSK（AES）の両方のセキュリティ方式に対応します。）
WPA2-PSK（AES）	アクセスポイントのセキュリティ方式を WPA2-PSK（AES）方式にします。

Key：選択した Encryption Type に応じ、アクセスポイントのセキュリティ方式のパスワードを入力します。

Encryption Type	パスワード
Open	パスワードは入力できません。
WEP 64bit	5 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。
WEP 128bit	13 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。
MIX（WPA-PSK/WPA2-PSK（TKIP/AES））または WPA2-PSK（AES）	8 から 63 文字のアスキーコードのパスワードを入力してください。

Obtain an IP address automatically：ルーターなどの DHCP サーバー機能により、自動でネットワークの設定を割り当てます。IP Address、Subnet Mask、Default Gateway、Primary DNS、Secondary DNS には、DHCP サーバーにより割り当てられた値が表示されます。

Specify an IP address：手動でネットワークを設定します。

– **IP Address**：プロジェクターの IP アドレスを入力します。

– **Subnet Mask**：プロジェクターのサブネットマスクを入力します。

– **Default Gateway**：プロジェクターのデフォルトゲートウェイを入力します。

– **Primary DNS**：プロジェクターのプライマリ DNS サーバーを入力します。

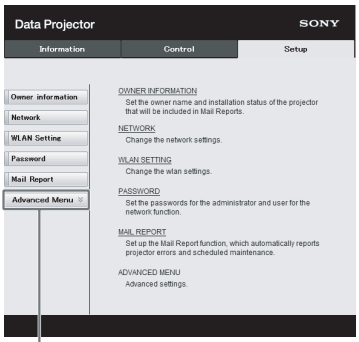
– **Secondary DNS**：プロジェクターのセカンダリ DNS サーバーを入力します。

MAC Address：USB ワイヤレス LAN モジュールの MAC アドレスが表示されます。

プロジェクターの入力端子ラベルを設定する

Setup ページで、投写画面上に表示される入力端子のラベル名を変更します。Setup ページで入力したラベル名は、Apply ボタンを押すまで適用されません。

1 Advanced Menu ボタンを押し、Setup ページを開きます。



Advanced Menu ボタン

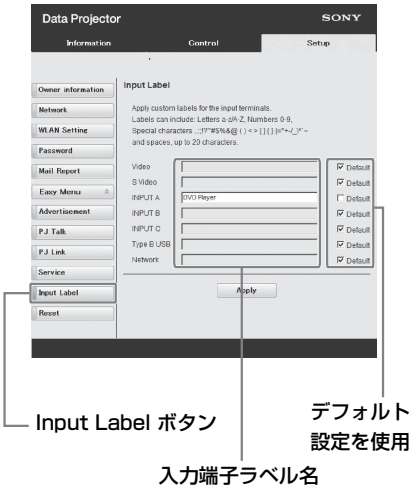
2 Input Label ボタンを押し、入力端子ラベル設定画面を開きます。

変更したいラベルのチェックボックスを外し、ラベル名を入力してください。下記の文字を最大 20 文字まで入力できます。

アルファベット：「a」～「z」、「A」～「Z」

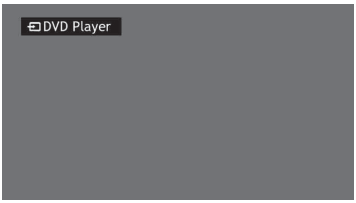
数字：「0」～「9」

記号：「.」、「,」、「:」、「;」、「!」、「?」、「'」、「"」、「#」、「$」、「%」、「&」、「@」、「(」、「)」、「<」、「>」、「[」、「]」、「{」、「}」、「|」、「=」、「*」、「+」、「-」、「/」、「_」、「\」、「^」、「`」、「~」、スペース



3 Apply ボタンを押して設定内容を確定します。

プロジェクターの入力を切り替えると、設定したラベル名が反映されます。

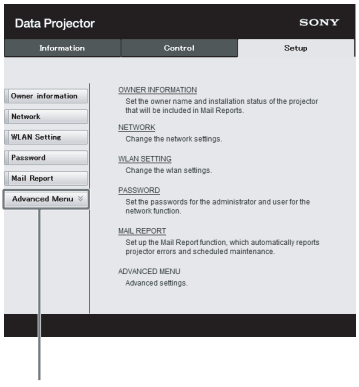


入力端子ラベル表示画面

プロジェクターの制御プロトコルを設定する

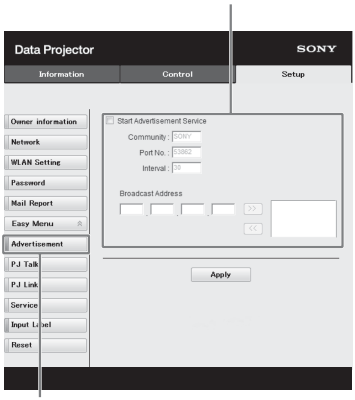
Setup ページから制御プロトコルの設定を変更します。Setup ページで入力した値は、Apply ボタンを押すまで適用されません。

1 Advanced Menu ボタンを押し、Setup ページを開きます。



2 (a) Advertisement を設定する。

Advertisement Service 設定エリア



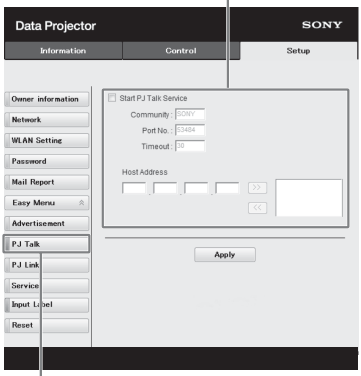
Advertisement ボタン

Start Advertisement Service : Advertisement のオン、オフを設定します。Advertisement に関する設定項目は、オンにした場合にのみ反映されます。工場出荷時はオフに設定されています。

- **Community :** Advertisement と PJ Talk のコミュニティ（Community）名を入力します。変更すると、PJ Talk のコミュニティ名も変更されます。入力は 4 文字の英数字のみです。工場出荷時は「SONY」に設定されています。他のコンピューターによるプロジェクターへの不要なアクセスを避けるため、コミュニティ名を工場出荷時の設定から変更することを推奨します。
- **Port No. :** Advertisement の送信ポートを入力します。工場出荷時は「53862」に設定されています。
- **Interval :** Advertisement の送信間隔（秒）を入力します。工場出荷時は「30」に設定されています。
- **Broadcast Address :** Advertisement によるデータの送信先を入力します。何も入力しない場合には、同一サブネット内にブロードキャストします。

(b) PJ talk を設定する。

PJ Talk Service 設定エリア



PJ Talk ボタン

Start PJ Talk Service : PJ Talk のオン、オフを設定します。PJ Talk に関する設定項目は、オンにした場合にのみ反映されます。工場出荷時はオフに設定されています。

- **Community :** Advertisement と PJ Talk のコミュニティ（Community）名を入力します。

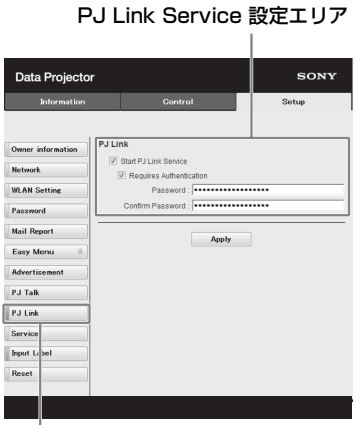
変更すると、Advertisement のコミュニティ名も変更されます。入力は 4 文字の英数字のみです。工場出荷時は「SONY」に設定されています。 他のコンピューターによるプロジェクターへの不要なアクセスを避けるため、コミュニティ名を工場出荷時の設定から変更することを推奨します。

– **Port No.**：PJ Talk のサーバーポートを入力します。工場出荷時は「53484」に設定されています。

– **Timeout**：PJ Talk の通信が途絶えた場合に接続を切断するまでの時間を入力します。工場出荷時は「30」に設定されています。

– **Host Address**：PJ Talk のサーバーが受信許可する IP アドレスを入力します。何も入力しない場合には、どの IP アドレスからもコマンドの受信を許可します。IP アドレスを入力された時点で、入力された IP アドレスからのみアクセスを許可するようになります。セキュリティ上、IP アドレスを入力し、アクセスを制限することを推奨します。

(c) PJ Link を設定する。

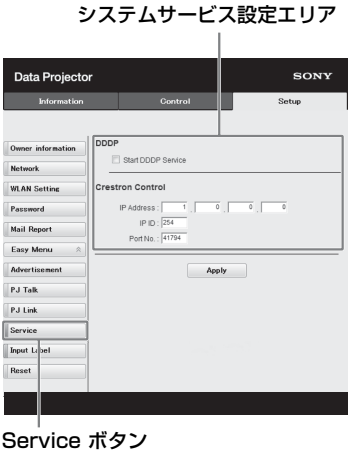


Start PJ Link Service：PJ Link 機能のオン、オフを設定します。PJ Link に関する設定項目は、オンにした場合にのみ反映されます。工場出荷時はオフに設定されています。

– **Requires Authentication**：PJ Link の認証機能のオン、オフを設定します。

– **Password**：PJ Link の認証パスワードを入力します。工場出荷時のパスワードは PJ Link の仕様を参照してください。

(d) システムサービス機能を設定する。



Start DDDP Service：DDP 機能のオン、オフを設定します。詳細は、AMX Corporation の DDP プロトコルの仕様を参照してください。工場出荷時はオフに設定されています。

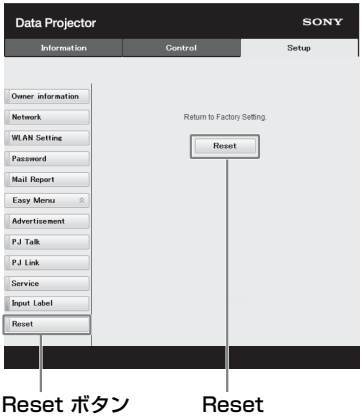
– **Crestron Control**：詳細は、Crestron Corporation の商品カタログなどを参照してください。

– **IP Address**：Crestron システムのサーバーを入力します。

– **IP ID**：CIP プロトコルの IP ID を入力します。

– **Port No.**：CIP プロトコルのサーバーのポート番号を入力します。

(e) ネットワーク設定を工場出荷状態する。



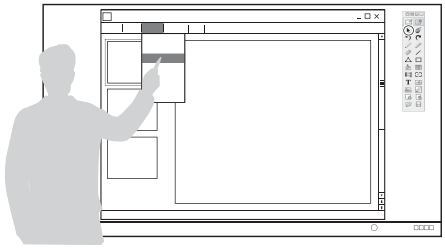
Reset：ウェブブラウザから設定できる項目全てを工場出荷時の状態にします。

Interactive Presentation Utility 2 を使用する(VPL-SW635C/SW630C/SW620C のみ)

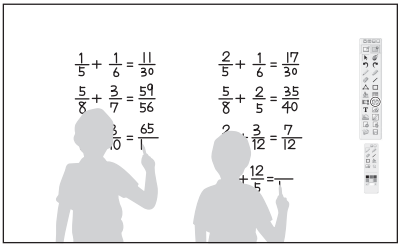
デスクトップモードではインタラクティブペンディバイス（メイン：IFU-PN250A、サブ：IFU-PN250B）とアプリケーション Interactive Presentation Utility 2 を使用することで、プロジェクターを様々な用途において、さらに効果的に使用することができます。

インタラクティブペンデバイスのマウス機能（メインのみ）を使用することで、投写画面上でコンピューターやアプリケーションをマウス同様に操作できます。また、アプリケーションの描画機能を使用することで、マウスの代わりにインタラクティブペンデバイスで投写画面に映し出されたファイル上に直接描き込みし、保存することができます。

デスクトップモード



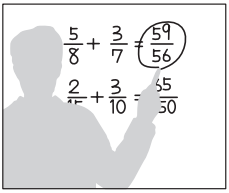
ホワイトボードモード



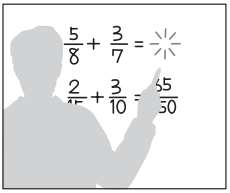
インタラクティブペンのマウス機能（メインのみ）の操作方法

・左クリック：ペンでスクリーンを一回タッチする
・ダブルクリック：ペンでスクリーンを２回タッチする
・ドラッグ アンド ドロップ：ペンでスクリーンをタッチしたまま移動する

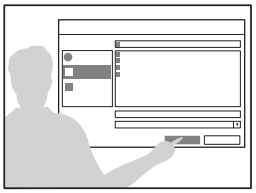
Interactive Presentation Utility 2 を起動すれば、インタラクティブペンデバイスを使用することで 投写画面上に線や図形などの描画ができます。ホワイトボードモードでは投写画面を電子ホワイトボードとして使用できます。また、背景をお好みの画像やテンプレートから選択することもできます。



描く



消す



保存する

インタラクティブペンデバイスのメインとサブを使用すれば、二人同時に描画できます。メインでは全ての機能が使用できますが、サブでは描画機能のみ使用できます。

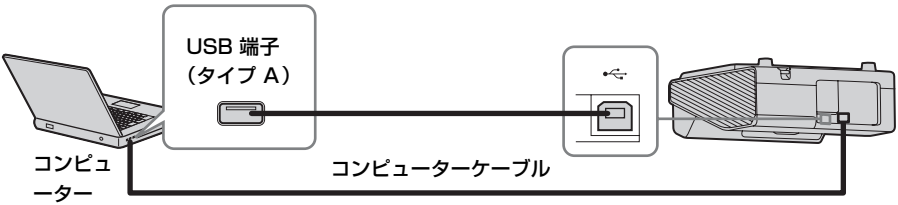
この機能を使うためにはコンピューターに Interactive Presentation Utility 2 をインストールする必要があります。Interactive Presentation Utility 2 のソフトウェアアップデートについて、詳細はソニーのホームページをご覧ください。
http://www.sony.jp/vpl/support/download/index.html

ご注意

・インタラクティブ機能はペンデバイスの先から発する赤外線をプロジェクター本体の受光窓で感知することで作動します。以下の注意事項を必ず守ってください。
  - 受光窓に直接、蛍光灯の光やその他強い光が差さないようにしてください。
  - ペン先や受光窓を手や物などで遮蔽しないでください。
  - 他の赤外線通信機器や強いノイズを発生する機器により誤動作、もしくは使用できなくなる場合があります。
・キャリブレーションの実行中は、以下の注意事項を守ってください。
  - プロジェクター本体の受光窓とスクリーンの間には物などを置かないでください。
  - プロジェクターやスクリーンを動かさないでください。
・キャリブレーション（自動）が正しく動作しないときは、以下の内容に従って対処してください。
  - 強い光や外光がスクリーンに直接当たらないようにしてください。
  - 周囲を少し暗くした状態で、キャリブレーション（自動）を実行してください。
  - 周囲を少し暗くした状態でもキャリブレーション（自動）が正しく動作しない場合、キャリブレーション（(手動）メイン）またはキャリブレーション（(手動）サブ）をクリックし、手動で調整してください。
  - 白色ではないスクリーンを使用した場合、キャリブレーション（自動）が実行できないおそれがあります。
・インタラクティブ機能が動作する画面サイズは、最大 100 インチです。

USB ケーブルでコンピューターと接続する

本機とコンピューターがコンピューターケーブルで接続されていることを確認してください。コンピューターケーブルの接続について詳しくは「接続のしかた」(9 ページ) をご覧ください。



Windows の場合

Interactive Presentation Utility 2 をインストールする

動作環境

・CPU：Celeron 2.1GHz 相当以上

・メモリー：256MB 以上（512MB を推奨）

・ハードディスクの空き容量：1GB 以上

・対応 OS：

Windows XP/Vista/Windows7*1/Windows 8*1

*1：32 ビット版 / 64 ビット版

1 起動中のアプリケーションを全て終了する。

2 CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブにセットし、CD-ROM 内の「Interactive Presentation Utility 2.exe」を開く。

3 ウィザードの指示に従ってアプリケーションをインストールする。

Interactive Presentation Utility 2 をアンインストールをするには、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Interactive Presentation Utility 2] - [Uninstall] を選んでください。

Interactive Presentation Utility 2 を設定する

1 プロジェクターとコンピューターをコンピューターケーブルとＵＳＢケーブルで接続し（54 ページ）、プロジェクターで映像を投写する。

映像信号（VGA）のコンピューターケーブル（ミニ D-sub15 ピンケーブル、HDMI ケーブル）の接続について詳しくは、9 ページをご覧ください。

2 「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」を「取り出し」に設定する（VPL-SW635C のみ）。

3 「タイプ B USB 割り当て」（30 ページ）で、スクリーン上の入力切替パレットの「入力端子」（16 ページ）と同じ入力端子を選び、Interactive Presentation Utility 2 を使用する映像を選ぶ（VPL-SW635C のみ）。

Interactive Presentation Utility 2 を使用するための各項目の設定方法は下記の 2 通り（a、b）です。

	PC フリーインタラクティブ	ホワイトボードデータ	入力切替パレットで選択されている入力端子	Type B USB 割り当て	Interactive Presentation Utility 2
a	オン	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B）」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動中
b	オフ	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B）」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動中

4 Interactive Presentation Utility 2 を起動する。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [Interactive Presentation Utility 2] - [Interactive Presentation Utility 2] を選んでください。

Interactive Presentation Utility 2 が起動するとタスクバーにアイコンが表示され、画面上にツールバーが表示されます。

キャリブレーション（自動／手動）

キャリブレーションは、ペン（メイン、サブ）で指した点と、プロジェクター画面上のカーソルがある点の位置をそろえます。
「キャリブレーション（自動）」では、自動的にキャリブレーションを実行できます。

メインペンのツールバー

❶ キャリブレーション（自動）
❷ キャリブレーション（手動（メイン））
❸ キャリブレーション（手動（サブ））

「キャリブレーション」をクリックし、「キャリブレーション（自動）」を選びます。キャリブレーションが自動的に開始されます。

インタラクティブペンデバイスで操作する

インタラクティブペンデバイスで、画面に表示されているツールバーの機能を使用できるようになります。詳細は、Interactive Presentation Utility 2 のユーザーガイドをご覧ください。

Interactive Presentation Utility 2 を終了する

タスクバーのアイコンをクリックしてポップアップメニューを表示し、「終了」を選択してください。

Mac の場合

Interactive Presentation Utility 2 をインストールする

動作環境

・CPU：Pertium III 相当以上
・メモリー：256MB 以上（512MB を推奨）
・ハードディスクの空き容量：250MB
・対応 OS：OS X 10.6.x/10.7.x/10.8.x/10.9.x

Interactive Presentation Utility 2 を使用するためには Interactive Presentation Utility 2 のインストールが必要です。

1 起動中のアプリケーションを全て終了する。

2 CD-ROM 内の [Interactive Presentation Utility 2.pkg] 開く。

3 画面の指示に従ってアプリケーションをインストールする。

Interactive Presentation Utility 2 をアンインストールをするには、アプリケーションフォルダの [Interactive Presentation Utility 2] フォルダをゴミ箱に移動し、ゴミ箱を空にしてください。

Interactive Presentation Utility 2 を設定する

1 プロジェクターとコンピューターをコンピューターケーブルと USB ケーブルで接続し（54 ページ）、プロジェクターで映像を投写する。

映像信号（VGA）のコンピューターケーブル（ミニ D-sub15 ピンケーブル、HDMI ケーブル）の接続について詳しくは、9 ページをご覧ください。

2「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」を「取り出し」に設定する（VPL-SW635C のみ）。

3「タイプ B USB 割り当て」（30 ページ）で、スクリーン上の入力切替パレットの「入力端子」（16 ページ）と同じ入力端子を選び、Interactive Presentation Utility 2 を使用する映像を選ぶ（VPL-SW635C のみ）。

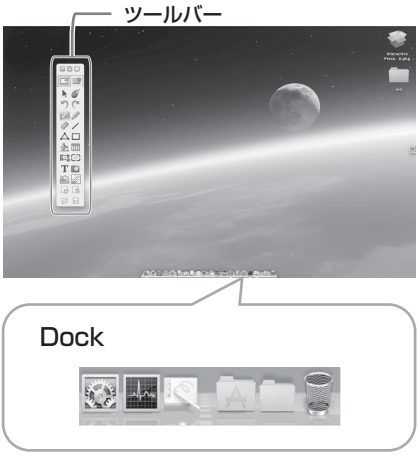
Interactive Presentation Utility 2 を使用するための各項目の設定方法は下記の 2 通り（a、b）です。

	PC フリーインタラクティブ	ホワイトボードデータ	入力切替パレットで選択されている入力端子	Type B USB 割り当て	Interactive Presentation Utility 2
a	オン	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B)」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動中
b	オフ	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B)」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動中

4 Interactive Presentation Utility 2 を起動する。

[アプリケーション] - [Interactive Presentation Utility 2] を開き、[Interactive Presentation Utility 2.app] をダブルクリックする。

アプリケーションを起動すると Dock にアイコンが表示され、画面上にツールバーが表示されます。



Interactive Presentation Utility 2 のアイコン

キャリブレーション（自動／手動）

キャリブレーションは、ペン（メイン、サブ）で指した点と、プロジェクター画面上のカーソルがある点の位置をそろえます。
「キャリブレーション（自動）」では、自動的にキャリブレーションを実行できます。

メインペンのツールバー

❶ キャリブレーション（自動）
❷ キャリブレーション（手動（メイン））
❸ キャリブレーション（手動（サブ））

「キャリブレーション」をクリックし、「キャリブレーション（自動）」を選びます。キャリブレーションが自動的に開始されます。

インタラクティブペンデバイスで操作する

インタラクティブペンデバイスで、画面に表示されているツールバーの機能を使用できるようになります。詳細は、Interactive Presentation Utility 2 のユーザーガイドをご覧ください。

Interactive Presentation Utility 2 を終了する

Dock 上のアイコンをクリックしてポップアップメニューを表示し、「終了」を選択してください。

PC フリーインタラクティブ機能を使用する（VPL-SW635C のみ）

PC フリーインタラクティブ機能とは、プロジェクター単体でインタラクティブペンを用いてスクリーンに描画できる機能です。ホワイトボードモードの描画データは、プロジェクター内に保存することができます。また、デスクトップモードでは、外部接続機器の映像を背景として、その上にインタラクティブペンで描画することができます。

PC フリーインタラクティブ機能を設定する

1 「インタラクティブ」で「PC フリーインタラクティブ」を「オン」にする（30 ページ）。

2 USB ケーブルを抜くか、メニューで「ホワイトボードデータ」を「本体へ保存」に設定する。

3 キャリブレーションを実行する。

「インタラクティブ」の「キャリブレーション」（30 ページ）または、ツールバー（63 ページ）で実行してください。

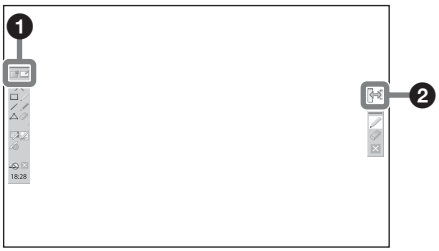
USB ケーブルを抜かなくても PC フリーインタラクティブ機能を使用できます。各項目の設定方法は下記の 3 通り（a ～ c）です。

	PC フリーインタラクティブ	ホワイトボードデータ	入力切替パレットで選択されている入力端子	Type B USB 割り当て	Interactive Presentation Utility 2
a	オン	取り出し	すべての入力端子のいずれか	「オフ」になっている、または左と異なる入力端子が選択されている。	起動中または起動していない
b	オフ	取り出し	すべての入力端子のいずれか	「オフ」になっている、または左と異なる入力端子が選択されている。	起動中または起動していない
c	オン	本体へ保存	すべての入力端子のいずれか	「オフ」またはいずれかの入力端子が選択されている。	起動中または起動していない

ご注意

・インタラクティブペン使用時およびキャリブレーション実行時のご注意については、63 ページをご覧ください。
・「インタラクティブ」で「PC フリーインタラクティブ」が「オン」に設定されていても、以下の条件のときは、PC フリーインタラクティブ機能を使用できません。
  - プロジェクターがコンピューターに USB 接続され、画面左上に表示される「入力端子」と「タイプ B USB 割り当て」の入力端子名が一致しているとき
  - メニューを表示したとき
  - 警告、注意などのメッセージが表示されたとき
・a、b の場合は、プロジェクターへのホワイトボードデータの保存はできません。
・インタラクティブ機能が動作する画面サイズは、最大 100 インチです。

デスクトップモード



❶ デスクトップモード/ホワイトボードモード切替

アイコンをクリックして、デスクトップモードとホワイトボードモードを切り替えます。

❷ ホッピングツール

メインペンツールバー、サブペンツールバーの位置を切り替える矢印がメインペンツールバーの反対側に表示されます。この矢印をクリックすると、メインペンツールバー、サブペンツールバーがそれぞれ反対側に移動します。この機能により、大画面でのツールバーに簡単にアクセスできます。

ホワイトボードモード

❸ ページ送り

前のページ、次のページに移動することができます。ページを最大 32 ページまで送ることができます。

デュアルユーザー（デュアルペン）

メインペンツールバー

・メインペンツールバーは、PC フリーインタラクティブ機能が有効のときに表示されます。
・デスクトップモードとホワイトボードモードでは、使用できるツールの内容が異なります。使用できないツールのアイコンは非表示となります。

ご注意

メインペン専用です。

サブペンツールバー

・サブペンツールバーは、PC フリーインタラクティブ機能が有効のときに表示されます。

ご注意

サブペン専用です。

キャリブレーション（自動／手動）

キャリブレーションは、ペン（メイン、サブ）で指した点と、プロジェクター画面上のカーソルがある点の位置をそろえます。

「キャリブレーション（自動）」では、キャリブレーションを自動的に実行できます。

「キャリブレーション（手動（メイン））」、または「キャリブレーション（手動（サブ））」を選ぶと、手動でキャリブレーションができます。

キャリブレーション実行中に、メニューを表示したり、または警告や注意などのメッセージが表示された場合は、キャリブレーションは中止されます。

また、キャリブレーションの操作を 20 秒以上中断した場合も、手動のキャリブレーションは中止されます。

キャリブレーションができなかった場合は、キャリブレーションのアイコンに が表示されます。その場合は、手動調整を実行してください。

ご注意

「キャリブレーション（自動）」の実行中は、以下の注意事項を守ってください。

・プロジェクター本体の受光窓とスクリーンの間に物などを置かないでください。
・プロジェクターやスクリーンを動かさないでください。

「キャリブレーション（自動）」が正しく動作しないときは、以下の内容に従って対処してください。

・強い光や外光がスクリーンに直接当たらないようにしてください。

・周囲を少し暗くした状態で、「キャリブレーション（自動）」を実行してください。
・周囲を少し暗くした状態でも、「キャリブレーション（自動）」が正しく動作しない場合、「キャリブレーション（手動（メイン））」または「キャリブレーション（手動（サブ））」を選び、手動で調整してください。
・白色ではないスクリーンを使用した場合、「キャリブレーション（自動）」が実行できないおそれがあります。

ペン反応速度調整

インタラクティブペンの反応速度の調整ができます。描画線の振動が気になる場合は、設定を「遅い」方に調整してください。ただし設定を「遅い」にした場合、速い描画動作への追従性が低下します。

ペン検出感度調整

インタラクティブペンを使用するときに部屋が明るすぎる場合、ペンの位置が検知できないため、誤動作する可能性があります。この機能により、ペン検知感度を調整し、システムをそのときの部屋の明るさに最適化します。
インタラクティブペンを使用中は、下記の環境では、ペンが描けなくなったり、線が途切れるなどの症状が発生することがあります。その場合、本機能ボタンを押すと、症状が改善します。

・明るい照明を使っている、または太陽光が射し込んでおり、環境全体が明るい場合。
・明るい照明、または太陽光がスクリーンに直接照射している場合。

ご注意

調整中に画面全体が黒くなりますが、操作しないでしばらくお待ちください。

管理ツール

保存（ホワイトボードモードのみ）

描画を PNG ファイルで保存できます。ホワイトボードモードのページ番号とメインペンツールバーの時計表示の時刻にもとづき、ファイル名が自動的につけられます。

pXX_yyyymmddHHMMSS.png
ページ 西暦 月 日 時 分 秒

ご注意

・USB ケーブルでコンピューターとプロジェクターを接続しており、メニューでホワイトボードデータの「取り出し」が選択されている場合、保存ボタンは灰色になり、操作できません。
・プロジェクターの容量が残り 500KB 以下になると、保存ボタンは灰色になり、操作できません。プロジェクター内の不要なファイルは削除してください（67 ページ）。
・描画中にプロジェクターの電源を切ると、そのホワイトボードデータは保存されずに消えます。電源を切る前に必要なデータを保存してください。

戻る（ホワイトボードモードのみ）

前回保存ボタンを押したときの描画データに戻すことができます。

ご注意

USB ケーブルでコンピューターとプロジェクターを接続しており、メニューでホワイトボードデータの「取り出し」が選択されている場合、戻るボタンは灰色になり、操作できません。

描画非表示（デスクトップモードのみ）

描画、ツールバーを非表示にします。この間、描画できません。

閉じる

ツールバーを非表示にします。この間、描画することができます。

ツールバー表示

ツールバーが非表示の場合、このアイコンをクリックすると、ツールバーが表示されます。また、描画が非表示のとき、このアイコンをクリックすると、描画を表示させることができます。

テンプレート選択（ホワイトボードモードのみ）

ホワイトボードモードの背景は、8 つのテンプレートから選択することができます。テンプレートを選択することで、ホワイトボードモードの背景を変更することができます。

描画ツールバー

元に戻す、やり直し

やり直しアイコンをクリックすると、操作する前の状態に戻すことができます。また、元に戻すアイコンをクリックすると、前の状態を元に戻すことができます。3 回操作をした前の状態まで戻すことができます。

ペン類

「ペン類」は最もよく使用されるツールで、インタラクティブ画面にコメントを付けたり、文字を書いたり、図を描いたりできます。「ペン類」には、「鉛筆 1」、「鉛筆 2」、および「マジックペン」が含まれています。「マジックペン」で描いたオブジェクトは、8 秒で消えます。

ご注意

- ペン類で描画できる線は、最長 2,560 ドット（スクリーンを横方向に 1 回往復した長さと同等）です。
- 点や線を多く描画した場合、徐々に書きにくくなります。
- マジックペンは、ホワイトボードモードのときのみ使用できます。

色、幅、透明度、スタイル

任意の色、幅、透明度、スタイルのアイコンをクリックして設定します。

ご注意

- マジックペンでは透明度を選択できません。
- デスクトップモードのときは、透明度を選択できません。

幾何図形 □

14 種類の幾何図形が用意されています。「幾何図形」ツールの図形を選択できます。

色、幅、透明度、幾何図形の形

任意の色、幅、透明度、幾何図形のアイコンをクリックして設定します。

ご注意

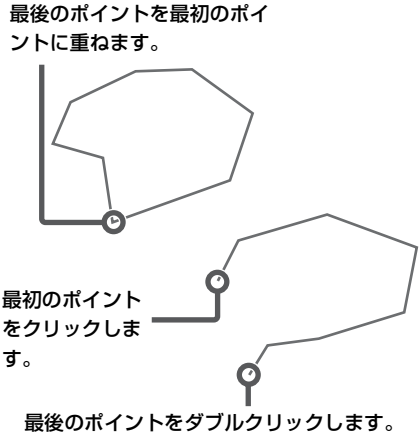
デスクトップモードのときは、透明度を選択できません。

線 ／

線を書くことができます。任意の色、幅、および、スタイルのアイコンをクリックして設定します。

ポイント ツー ポイント △

このツールで、「多角形」や「カギ線」を作成できます。多角形やカギ線を作成するには、そのアイコンをクリックし、多角形またはカギ線を作成する別のポイントをクリックします。最後のポイントをダブルクリックすると、多角形またはカギ線の作成が終了します。また最後のポイントに最初のポイントを重ねて、形を作ることができます。



消しゴム

「オブジェクト消去」および、「すべてを消去」の 2 つの消去方法が用意されています。

オブジェクト消去

メインペンで消去する場合、アイコンを選択し、オブジェクトをクリックすることで、オブジェクトが消去されます。サブペンで消去する場合は、アイコンを選択し、オブジェクトをクリックすると、サブペンで描かれたオブジェクトのみが消去されます。

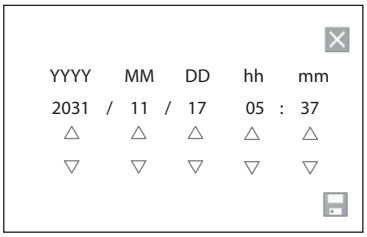
すべてを消去

メインペンで消去する場合、アイコンを選択して画面をクリックすると、そのページのすべてのオブジェクトが消去されます。サブペンで消去する場合は、アイコンを選択し、画面をクリックすると、サブペンで描かれたその

ページのすべてのオブジェクトが消去されます。

時計表示 18:28

時計表示をクリックすると、時計調整ができます。



調整 △ ▽

上ボタンと下ボタンで日時を合わせます。

保存

設定した日時を保存できます。

キャンセル

時計調整画面をキャンセルするときに使用します。

ご注意

プロジェクターが長時間電源オフである場合、または、「スタンバイモード」が「低」のままスタンバイ状態で長時間放置した場合、時計表示設定がお買い上げ時の設定に戻っていることがあります。その場合は、再度時計設定をしてください。

プロジェクター本体の保存データを取り出す

コンピューターとプロジェクターをUSB ケーブルで接続することにより、プロジェクター内に保存されたホワイトボードデータをコンピューターに移すことができます。

1 「機能設定」の「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」を「取り出し」に設定する（31 ページ）。

2 コンピューターとプロジェクターを USB ケーブルで接続する（54 ページ）。

しばらくすると、プロジェクターがハードディスクドライブとして認識されます。

3 ハードディスクドライブ内の SavedPng フォルダを開き、必要なファイルをコンピューターにコピーする。

プロジェクター内の不要なファイルは必要に応じて削除してください。

ご注意

- ホワイトボードデータにアクセスしているとき、USB ケーブルを抜かないでください。ファイルが破損するおそれがあります。
- プロジェクター内部のホワイトボードデータにアクセスしているとき、メニューで「ホワイトボードデータ」を「本体へ保存」に設定すると、ファイルが破損するおそれがあります。ホワイトボードデータにアクセスしているときは、操作しないでください。
- プロジェクターのドライブに画像または映像ファイルを直接入れても、プロジェクターで投写することはできません。

マウスモード機能を使用する（VPL-SW635C のみ）

プロジェクターとコンピューターを USB ケーブルで接続し、スクリーン上で直接マウス操作ができます。コンピューターの画面上にあるアプリケーションなどを直接操作することができます。

ご注意

メインペンのみ使用できます。

動作環境

・対応 OS：Windows 7/Windows 8/Windows 8.1

マウスモードを設定する

1 プロジェクターとコンピューターをコンピューターケーブルと USB ケーブルで接続し（54 ページ）、プロジェクターで映像を投写する。

映像信号（VGA）のコンピューターケーブル（ミニ D-sub15 ピンケーブル、HDMI ケーブル）の接続について詳しくは、9 ページをご覧ください。

2 「機能設定」の「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」を「取り出し」に設定する（31 ページ）。

3 「タイプ B USB 割り当て」（30 ページ）で、スクリーン上の入力切替パレットの「入力端子」（16 ページ）と同じ入力端子を選び、マウスモードを使用する映像を選ぶ。

マウスモードを使用するための各項目の設定方法は下記の 2 通り（a、b）です。

	PC フリーインタラクティブ	ホワイトボードデータ	入力切替パレットで選択されている入力端子	Type B USB 割り当て	Interactive Presentation Utility 2
a	オン	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B）」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動していない
b	オフ	取り出し	「入力 A」、「入力 B」、「入力 C」、「USB（タイプ B）」、「ネットワーク」のいずれか	左と同じ入力端子が選択されている。	起動していない

4 キャリブレーションを実行する。

「インタラクティブ」で「キャリブレーション」の「自動」または「手動（メイン）」を選ぶ（30 ページ）か、または PC フリーインタラクティブ機能のツールバー（63 ページ）でキャリブレーションを実行してください。

ご注意

インタラクティブペン使用時およびキャリブレーション実行時のご注意については、63 ページをご覧ください。

マウスモード使用時のインタラクティブペンの操作について

対応するマウスの操作	インタラクティブペンの操作
左クリック	ペン先でスクリーンを 1 回タッチする。
ダブルクリック	ペン先でスクリーンを 2 回タッチする。
ドラッグアンドドロップ	ペン先でスクリーンをタッチしたまま移動して離す。
右クリック	ボタンを押す。

ご注意

・投写している映像の周辺領域に黒の部分が多く含まれていると、正しい映像が表示されず、ペン先とコンピューターのカーソルの位置がずれることがあります。その場合は、手動で「ピッチ」、「シフト」を調整してください（27 ページ）。
・コンピューターの映像の信号の解像度と、情報メニューの「信号の種類」（37 ページ）が一致していない場合、ペン先とコンピューターのカーソルの位置がずれることがあります。
・インタラクティブ機能が動作する画面サイズは、最大 100 インチです。

ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能を使用する

ネットワーク経由でプレゼンテーション機能を使用することで、以下のことができます。

・プロジェクターに最大８台のコンピューターを同時に接続する。
・最大４台のコンピューターから同時に映像を投写する。
・USB ワイヤレス ＬＡＮ モジュールをアクセスポイントとして利用する場合、プロジェクターに最大７台のコンピューターを同時に接続することができます。

ネットワーク経由でのプレゼンテーション機能を利用する ためには、付属の CD-ROM に収録されているアプリケーション Projector Station for Network Presentation をコンピューターにインストールする必要があります。Projector Station for Network Presentation のソフトウェアアップデートについて、詳細はソニーのホームページをご覧ください。

http://www.sony.jp/vpl/support/download/index.html

以下はアプリケーションの使用に必要な動作環境です。

OS

Windows XP：Home/Professional（推奨）
Windows Vista：Home Premium/Business/Ultimate/Enterprise
Windows 7：Home Premium/Professional（推奨）/Ultimate/Enterprise
Windows 8
Mac OS X：10.6.x/10.7.x/10.8.x

CPU

Pentium4 2.8GHz 以上

ご注意

・アプリケーションをインストールする場合には、管理者権限が必要です。
・管理者権限がない場合は、アプリケーションが正常に動作しない場合があります。
・ファイアウォールやセキュリティソフトなどがインストールされている場合は、アプリケーションが正常に動作しない場合があります。
・ネットワークアダプタのドライバのバージョンによっては、アプリケーションが正常に動作しない場合があります。
・メディアプレーヤーなどの動画再生ソフトは正常に表示できない場合があります。

Projector Station for Network Presentation をインストールする

1 起動中のアプリケーションを全て終了する。

2 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入する。

3 CD-ROM を開く。

Windows の場合

.exe ファイルをダブルクリックします。ユーザーアカウント制御が表示される場合には、「許可」あるいは「はい」をクリックしてください。

Macintosh の場合

.pkg ファイルをダブルクリックします。

4 ウィザードの指示に従ってアプリケーションソフトウェアをインストールする。

Projector Station for Network Presentation を起動する

1 プロジェクターをネットワークに接続する。

有線 LAN を使用する場合は、本機を LAN ケーブル で接続し、ネットワーク設定を行ってください。詳しくは、「有線 LAN 設定」（33 ページ）または「プロジェクターの有線 LAN ネットワーク設定を行う」（43 ページ）を参照してください。

無線 LAN を使用する場合は、「LAN 端子（LAN）」（11 ページ）または「USB 端子（タイプ A）（⇜）」（11 ページ）をご覧下さい。また、「無線 LAN 設定」の設定を確認してください。（33 ページ）

2 プロジェクターを起動する。

投写する映像として「ネットワーク」を選択してください（16 ページ）

3 Projector Station for Network Presentation を起動する。

Windows の場合

コンピューター上で [スタート]-[すべてのプログラム]-[Projector Station for Network Presentation] を選択してください。

Mac の場合

アプリケーションフォルダーから「Projector Station for Network Presentation」をダブルクリックします。

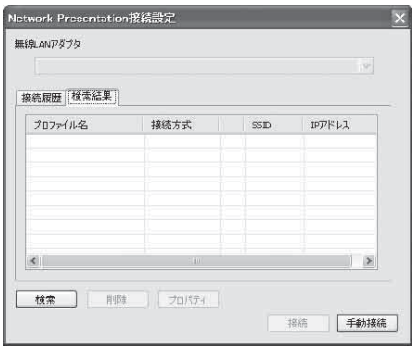
映像を転送する

Projector Station for Network Presentation を起動すると、接続設定画面が表示されます。

1 ネットワークに接続されているプロジェクターを検索する。

接続設定画面の「検索」をクリックし、プロジェクターを検索します。

Windows の場合



Mac の場合

ご注意

・アプリケーションの画面は予告なく変更されることがあります。
・プロジェクターが無線 LAN でネットワークに接続されている場合、「SSID」をお買い上げ時の設定から変更すると、検索で見つからない場合があります。
・プロジェクターが有線 LAN でネットワークに接続されている場合、ネットワークの環境により検索で見つからない場合があります。
・「無線 LAN 設定」の「SSID」と「セキュリティ方式」、「ワイヤレスパスワード」を変更しているプロジェクターに接続する場合には、「手動接続」を選択し、接続を行なってください。

2 映像転送先のプロジェクターを選択する。

チェックボックスをチェックしてください。

3 「接続」をクリックする。

他のユーザが映像を転送している場合には、画面にコントローラーが表示されます。►をクリックすると映像の転送を開始します（73 ページ）。

他のユーザーが映像を転送していない場合は、画面にコントローラーが表示され、映像の転送を開始します。

ご注意

アプリケーションを起動すると、コンピューターの解像度など表示に関する設定が変更されます。

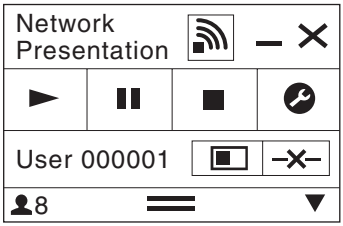
接続設定

項目	説明
無線 LAN アダプタ（Windows のみ）	Projector Station for Network Presentation で利用する無線 LAN アダプタを選択します（無線接続時のみ表示されます）。
接続履歴	今までに接続したことがあるプロファイルを表示します。
検索結果	検索結果を表示します。
プロファイル名	ネットワーク上で検出されたプロジェクターの登録名称を表示します。
接続方式	接続方式（ネットワーク接続／ワイヤレスダイレクト接続）を表示します。

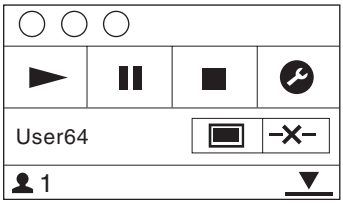
項目	説明
	電波強度を表示します（無線接続のみ）。
SSID	SSID を表示します （無線接続のみ表示されます）。
IP アドレス	IP アドレスを表示します（有線接続のみ表示されます）。
検索	プロジェクターの検索を開始します。
削除	選択したプロファイルを削除します。
プロパティ	選択したプロファイルのプロパティを表示します。
接続	選択したプロジェクターに接続し、転送を開始します。
手動接続	SSID または IP アドレスを手動で入力してプロジェクターに接続し、転送を開始します。

コントローラーの操作のしかた

Windows の場合



Mac の場合



項目		機能
		転送を開始します。
		転送を一時停止します。
		転送を停止します（黒画面となります）。
		アプリケーションの設定を変更します。
		プロジェクターとの接続を切断します。
		画面表示状態を指定し、転送を開始します。
画面表示状態		映像を転送しません。
		映像を全画面で転送します。
		映像を２画面左で転送します。
		映像を２画面右で転送します。
		映像を４画面左上で転送します。
		映像を４画面右上で転送します。
		映像を４画面左下で転送します。
		映像を４画面右下で転送します。
		現在の電波強度を表示します。
		プロジェクターに接続しているユーザー数を表示します。
		他のユーザーの状態を表示します。

タブレット端末／スマートフォンから画像やファイルを送信して表示する

専用のアプリケーションを使用することで、タブレット端末／スマートフォンに保存したJPEG画像やPDFファイルなどのワイヤレス投写ができます*1。アプリケーションのダウンロード*2や詳しい使用方法は、以下のURLを参照してください。

http://PWPresenter.pixelworks.com

*1：アプリケーションの使用には、以下のうちいずれかが必要です。
- ・無線接続が可能なネットワークに接続されている（11ページ）。
- ・USBワイヤレスLANモジュールIFU-WLM3（別売）をプロジェクターに接続してネットワークに無線接続する（11ページ）。

*2：インターネットへのアクセス手段によりデータ通信料が発生する場合があります。

USB 経由で動画と音声を再生する

USB A-B ケーブル（別売）でプロジェクターとコンピューターを接続することで、動画と音声を再生することができます。
USB 経由で動画と音声を再生するためには、USB Display を起動する必要があります。

以下はアプリケーションの使用に必要な動作環境です。

OS

Windows XP：Home/Professional（推奨）
Windows Vista：Home Premium/Business/Ultimate/Enterprise
Windows 7：Home Premium/Professional（推奨）/Ultimate/Enterprise
Windows 8
Mac OS X：10.6.x/10.7.x/10.8.x

CPU

Pentium4 2.8GHz 以上

USB Display を起動する

1 プロジェクターとコンピューターを USB A-B ケーブル（別売）で接続する（10 ページ）。

2 プロジェクターを起動する。
投写する映像として「USB （タイプ B)」を選択してください（16 ページ)。しばらくすると、本機が CD-ROM ドライブとして認識されます。

3 CD-ROM ドライブ内の「USB Display」を開く。

ご注意

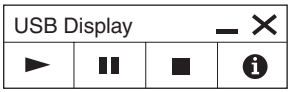
・アプリケーションを起動すると、コンピューターの解像度が自動的に変更されます。
・コンピューターの設定によっては、アプリケーションが自動的に起動することがあります。
・終了時に「ハードウェアの安全な取り外し」を実行せずに、ケーブルを抜いてください。
・メディアプレーヤーなどの動画再生ソフトは正常に表示できない場合があります。
・Windows Vista、Windows 7、Windows 8 を使用する場合、Windows Aero をオフにすることを推奨します。

動画と音声を再生する

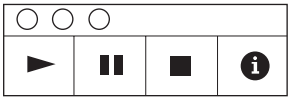
USB Display を起動すると、画面にコントローラーが表示され、映像の転送を開始します。

コントローラーの操作のしかた

Windows の場合



Mac の場合



項目	機能
►	動画と音声の再生を開始します。
❚❚	動画と音声の再生を一時停止します。
■	動画と音声の再生を停止します（黒画面となります）。
ⓘ	アプリケーションの情報を表示します。

USB Media Viewer 機能を利用する

本機の USB 端子（タイプ A）に接続した USB 記録メディア内の画像ファイルを、コンピューターを経由せずに投写することができます。

対応記録メディアとファイル形式

・対応記録メディア：USB フラッシュメモリー
・対応記録メディアフォーマット：FAT 形式
・対応ファイル形式：JPEG（.jpg/.jpeg）、Bitmap（.bmp）、PNG（.png）、GIF（.gif）、TIFF（.tif/.tiff）

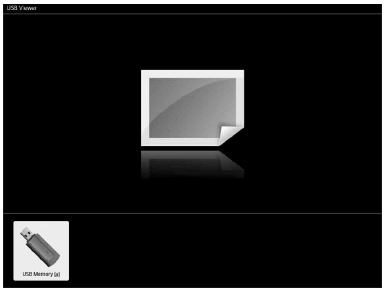
ご注意

・exFAT、NTFS には対応していません。
・EXIF 情報を含む TIFF ファイルには対応していません。
・USB ハブを経由してプロジェクターに接続された USB メモリー内の画像ファイルは、表示できない場合があります。
・セキュリティ付き USB メモリーは正常に動作しない場合があります。
・複数のドライブとして認識される USB メモリーカードリーダーは正常に動作しない場合があります。
・ファイルサイズが 4092 × 3072 ピクセルよりも大きい画像の表示は保証しません。表示に時間がかかったり、表示できない場合があります。
・フォルダが深いフォルダ階層を含む場合やフォルダ名が長い場合、フォルダが表示されない場合があります。
・画像の種類によっては表示できない場合があります。
・フォルダ名およびファイル名に英数字以外が使用されている場合は、表示できない場合があります。
・画像を表示している時に USB メモリーを抜かないでください。USB メモリーおよびプロジェクターの故障の原因となります。USB メモリーは USB Media Viewer の USB メモリー 選択画面で抜いてください。

1 USB メモリーをプロジェクターに接続する（14 ページ）。

2 投写する映像として「USB （タイプ A）」を選択する（16 ページ）。

3 USB メモリーを選択する。



ENTER ボタンを押すとサムネイルモードが表示されます。
USB Media Viewer には「サムネイル表示モード」、「ディスプレイモード」、「スライドショーモード」の３つの表示モードがあります。

サムネイル表示モード

フォルダ内の画像が一覧で表示されます。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで画像を選択し、ENTER ボタンを押すと、スクリーン下部にオプションメニューが表示されます。

オプションメニュー

サムネイルの表示順序や画像の表示方法を設定します。

項目	項目説明
×	オプションメニューを非表示にします。
	ディスプレイモードに切り替わり、選択中の画像を全画面で表示します。（79 ページ）
	スライドショーモードに切り替わり、選択中の画像からスライドショーを開始します。（80 ページ）
	画像を並び替えます。

項目	項目説明
画像の並び替え	
	名前の昇順で並び替えます。
	名前の降順で並び替えます。
	日付の昇順で並び替えます。
	日付の降順で並び替えます。

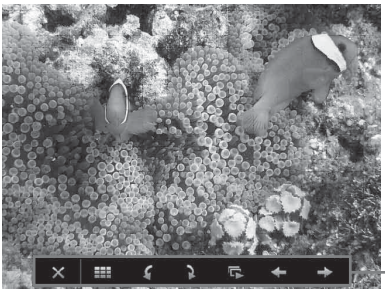
ご注意

・アプリケーションで作成した画像など、サムネイルデータがないファイルは、空白のアイコンが表示されます。

・一つのフォルダ内では、ファイルとフォルダーが 200 個までしか表示できません。

ディスプレイモード

ディスプレイモードでは画像を全画面表示で閲覧することができます。



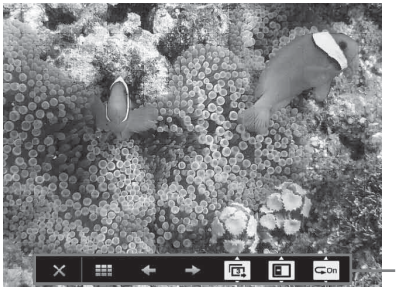
リモコンの ENTER ボタンを押すと、スクリーン下部にオプションメニューが表示されます。

オプションメニュー

項目	項目説明
	オプションメニューを非表示にします。
	サムネイル表示モードに戻ります。(78 ページ)
	画面を反時計周りに回転します。
	画面を時計周りに回転します。
	スライドショーモードに切り替わり、選択中の画像からスライドショーを開始します。(80 ページ)
	前の画像を表示します。
	次の画像を表示します。

スライドショーモード

スライドショーモードでは画像をスライドショーで閲覧することができます。


オプションメニュー

リモコンの ENTER ボタンを押すと、スライドショーが一時停止し、スクリーン下部にオプションメニューが表示されます。

オプションメニュー

項目	項目説明
×	オプションメニューを非表示にします。
	サムネイル表示モードに戻ります。(78 ページ)
	前の画像を表示します。
	次の画像を表示します。
	▲/▼ ボタンを押し、スライドショーのスライド切替時間を変更します。
スライドショーの切替時間	
	3 秒後に次の画像を表示します。
	5 秒後に次の画像を表示します。
	10 秒後に次の画像を表示します。
	▲/▼ ボタンを押し、スライドショーの切替効果を変更します。
スライドショーの切替効果	
	タイル状に画像が切り替わります。
	次の画像が画面左から現れます。
	次の画像が画面右から現れます。
	次の画像が画面上から現れます。
	次の画像が画面下から現れます。
On	▲/▼ ボタンを押し、スライドショーの繰り返し設定を変更します。

項目	項目説明
スライドショーの繰り返し設定	
On	最後の画像表示後に再び最初の画像からスライドショーを実行します。
Off	最後の画像表示後にスライドショーが終了し、サムネイル表示モードに戻ります。

インジケーターの見かた

インジケーターの点灯により、本機の状態や異常の発生を確認することができます。異常が発生している場合は、表にしたがい対処してください。

ON ／ STANDBY インジケーター

状況	意味／対処のしかた
赤色に点灯	スタンバイ状態です。
緑色に点滅	本体に電源が入り、操作可能になるまでの間、または電源を切ったあと、冷却している状態です。
緑色に点灯	電源が入っている状態です。
オレンジ色に点灯	無信号時設定（ランプオフ）状態です（33 ページ）。
赤色に点滅	異常な状態です。点滅回数により症状が異なります。以下の内容に従って対処してください。また、以下の対処を行っても症状が再発する場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。
2 回点滅	内部温度が高温になっています。以下を確認してください。 ・排気口、吸気口が壁や物などでふさがれていないか（4 ページ、4 ページ）。 ・エアーフィルターがつまっていないか（92 ページ）。 ・設置設定メニューの設置角度が正しく設定されているか。（36 ページ）
6 回点滅	電源コードを抜き、ON ／ STANDBY インジケーターが消えるのを確認してから、もう一度電源コードをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
その他の点滅回数	ソニーの相談窓口にご相談ください。

LAMP/COVER インジケーター

状況	意味／対処のしかた
赤色に点滅	点滅回数により症状が異なります。以下の内容にしたがって対処してください。
2 回点滅	ランプカバーが確実に取り付けられていません（90 ページ）。
3 回点滅	ランプが高温になっています。電源を切り、ランプが冷えてからもう一度電源を入れてください。 症状が再発する場合は、ランプの消耗が考えられます。新しいランプに交換してください（90 ページ）。

メッセージ一覧

画面に次のようなメッセージが表示されたら、表にしたがい対処してください。

メッセージ	意味／対処のしかた	ページ
セット内部温度が高いです。1 分後にランプオフします。	以下を確認してください。 ・排気口、吸気口がふさがれていないか。 ・エアーフィルターがつまっていないか。 ・設置設定の設置角度が正しく設定されているか。	4、4、36、92
入力信号の周波数が対応範囲をこえています！	接続先の機器の外部出力設定を本機が対応している信号に変更してください。	99
入力 A 信号種別の設定を確認してください。	「入力 A 信号種別」をオートまたは入力されている信号に合わせて設定してください。	33
フィルターを掃除してください	エアーフィルターを掃除してください。	92
ランプを交換し、フィルターを掃除してください。	ランプを交換し、エアーフィルターを掃除してください。 メッセージは、ランプを交換してランプタイマーを初期化するまで、起動時に毎回表示されます。	90、92
本機内部の温度が高くなっていますので、高地モードを入に切り替えます。高地でご使用の際は、高地モードは入でお使いください。	高地（海抜 1500m 以上）で使用していない場合は、以下を確認してください。 ・排気口、吸気口がふさがれていないか。 ・エアーフィルターがつまっていないか。 ・設置設定メニューの設置角度が正しく設定されているか。	4、4、36、92
無効キーが押されました。	無効なボタンが押されました。	−
操作キーロック中です！	操作キーロックが設定されています。	32
まもなく電源オフします I/⏻ キーで復帰できます	I/⏻ ボタンが押され、まもなくシャットダウンされます。 I/⏻ ボタンをもう一度押すと、シャットダウンが取り消され、電源オン状態に戻ります。 すぐに電源オフにしたい場合は、I/⏻ ボタンを数秒間長押ししてください。	21

メッセージ	意味／対処のしかた	ページ
ランプ減光中	信号無変化時設定により、ランプ出力を低減させている時に表示されます。信号変化や操作（リモコンまたは操作部）を検出すると復帰します。	34

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度次の点検をしてください。以下の対処を行っても直らない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620/VPL-SX630

症状	対処のしかた	ページ
電源が入らない	電源コードがしっかりと差し込まれていることを確認してください。	–
	「操作キーロック」が「入」になっていると、本体の I/⏻ ボタンで電源を入れることができません。	32
	ランプまたはランプカバーが確実に取り付けられていないと電源が入りません。	90
映像が映らない	再生する機器との間の接続ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認してください。	9
	コンピューターの出力設定が外部モニター出力になっていることを確認してください。 ノート型のコンピューターなどで、出力信号をコンピューターの液晶ディスプレイと外部モニターの両方に出力するように設定すると、外部モニターに正しく映像が出ない場合があります。この場合は、外部モニターにのみ信号が出力されるように、コンピューターを設定してください。	17
	アプリケーション「USB Display」もしくは「Projector Station for Network Presentation」が起動していることを確認してください。	70, 75
	接続している USB メモリーが、本機に対応していることを確認してください。	77
	入力が正しく選ばれていることを確認してください。	16
	BLANK ボタンが押され、映像消去されていないことを確認してください。	6
アプリケーション「USB Display」もしくは「Projector Station for Network Presentation」が起動しない	本機と接続するコンピューターが、アプリケーションの動作環境に対応していることを確認してください	70, 75

症状	対処のしかた	ページ
コンピューターが本機と接続できない	・本機の有線 LAN 設定を確認してください。 ・無線の状態を確認してください。	33
画面表示が出ない	「画面表示」が「切」になっていると表示されません。	32
アスペクト（画面の縦横比）がおかしい／画面が小さく表示される／映像の一部が表示されない	入力信号を正しく判定できないことにより、正しく表示されない場合があります。その場合は「アスペクト」の設定を手動で設定してください。	6、26、28
画面が台形になっている	投写する面に対して斜めに投写していると、画面が台形になります。この場合、キーストーン補正機能を利用して補正することができます。	6、20、36
画面が暗い／明るすぎる	「明るさ」、「コントラスト」、「ランプモード」の設定により、画面の明るさが変わります。適切な値になっているか確認してください。	24、33
	ランプが消耗していると画面が暗くなります。「ランプ使用時間」を確認し、ランプを交換してください。	37、90
	「信号無変化時設定」が設定されている。	34
	消画中は、消費電力削減の為、ランプ輝度を低減させています。	34
	映像信号が入力されていない場合は、消費電力削減の為、ランプ輝度を低減させています。	−
画面が明るくなったり暗くなったりする	ランプ輝度を低減させている時間が長く続くと、一時的にランプ出力が上昇することがありますが故障ではありません。	−
	ランプモードの設定が「オート」の場合、映像によりランプの輝度が変動します。	33
画面がぼやける	フォーカスがあっていることを確認してください。	18
	レンズが結露していると画面がぼやけます。結露してしまった場合は、電源を入れたまま約 2 時間そのままにしておいてください。	−
画面にノイズが出る	再生する機器との間の接続ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認してください。	9

症状	対処のしかた	ページ
音声が出ない	再生する機器、または外部オーディオ機器との間の接続ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認してください。	9
	外部オーディオ機器が正しく設定されていることを確認してください。	−
	「スピーカー」が「切」に設定されていると音声が出ません。	30
	消音されていると音声が出ません。	7
	音量が最小になっていないことを確認してください。	7、30
リモコンが機能しない	電池が正しく挿入されていることを確認してください。	−
	電池が消耗していないことを確認してください。	−
ファンの音が気になる	以下のような場合は、ランプなどをより冷却する必要があるため、ファンの音が大きくなります。 ・ランプモードを「高」で使用している ・高地で使用している（高地モード：「入」） ・本機の周りの温度が高い場所で使用している	33、36
	吸気口、排気口がふさがれていると内部温度が上昇し、ファンの音が大きくなります。	4、4

VPL-SW635C のみ

症状	対処のしかた	ページ
PC フリーインタラクティブ機能が使えない	「インタラクティブ」で「PC フリーインタラクティブ」が「オン」に設定されていることを確認してください。	30
	プロジェクターとコンピューターが USB ケーブルで接続されていないか、または、「PC フリーインタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」が「本体へ保存」になっていることを確認してください。	10、31
	メニューを非表示にしてください。	23
	スクリーンに警告、注意などのメッセージを表示がされていないことを確認してください。	−
PC フリーインタラクティブ機能で描画できない	機能設定メニューの「キャリブレーション」でキャリブレーションを実行してください。	30

症状	対処のしかた	ページ
マウスモードにならない	プロジェクターとコンピューターがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。	10
	「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」が「取り出し」に設定されていることを確認してください。	31
	「タイプB USB割り当て」で選ばれた入力端子が、スクリーン上の入力切替パレットの「入力端子」と一致していることを確認してください。	16、30
	Interactive Presentation Utility 2が起動していないことを確認してください。	55、59
Interactive Presentation Utility 2モードにならない	プロジェクターとコンピューターがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。	10
	「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」が「取り出し」に設定されていることを確認してください。	31
	「タイプB USB割り当て」で選ばれた入力端子が、スクリーン上の入力切替パレットの「入力端子」と一致していることを確認してください。	16、30
	Interactive Presentation Utility 2が起動していることを確認してください。	55、59
ホワイトボードデータの保存ができない	プロジェクターからUSBケーブルを抜くか、「ホワイトボードデータ」を「本体へ保存」に設定してください。	31
	プロジェクターの容量が残り500KB以下になると、それ以上データを保存できません。必要なデータをコンピューターに保存し、プロジェクター内のファイルを削除してください。	67
正しい時刻が表示されない	プロジェクターが長時間電源オフである場合、または「スタンバイモード」が「低」のまま、スタンバイ状態で長時間放置した場合、時計表示設定がお買い上げ時の設定に戻っていることがあります。その場合は、時計表示アイコンをクリックして再度時間設定をしてください。	34、67
プロジェクターに保存されたホワイトボードデータが取り出せない	プロジェクターとコンピューターがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。	10
	「インタラクティブ」で「ホワイトボードデータ」が「取り出し」に設定されていることを確認してください。	31

症状	対処のしかた	ページ
マウスモードでコンピューターのカーソルとペンの位置がずれている	「インタラクティブ」で「キャリブレーション」の「自動」または「手動（メイン）」を選び、キャリブレーションを実行してください。	30
	画面の「ピッチ」、「シフト」を調整してください。	27
	コンピューターの映像の信号の解像度と、情報メニューの「信号の種類」が一致していない場合、ペン先とコンピューターのカーソルの位置がずれることがあります。コンピューターの解像度と「信号の種類」をあわせるよう、コンピューターを設定してください。	37
「ランプモード」が「オート」に設定されているが、無効になる	「インタラクティブ」で「PC フリーインタラクティブ」が「オン」に設定されており、同時に「ランプモード」が「オート」に設定されていると、「ランプモード」は自動的に「標準」同等になります。必要に応じ、「PC フリーインタラクティブ」を「オフ」に設定してください。	30
「無信号時設定」が「ランプオフ」または「スタンバイ」に設定されていても、無効になる	「インタラクティブ」の「PC フリーインタラクティブ」が「オン」のとき、「無信号時設定」は自動的に「切」同等になります。必要に応じ、「PC フリーインタラクティブ」を「オフ」にしてください。	30、33
「信号無変化時設定」が「ランプ減光」に設定されていても、無効になる	「インタラクティブ」の「PC フリーインタラクティブ」が「オン」のとき、「信号無変化時設定」は自動的に「切」同等になります。必要に応じ、「PC フリーインタラクティブ」を「オフ」にしてください。	30、34

ランプを交換する

投写画面にメッセージが表示された場合は、新しいランプに交換してください。（83 ページ）
交換ランプは、プロジェクターランプ LMP-E220（別売）をお使いください。

⚠警告

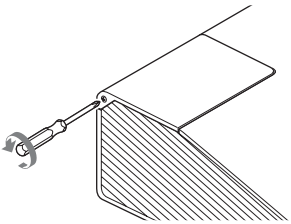
・電源を切った直後はランプが高温になっているため、**触れるとやけどの原因**となります。ランプを充分に冷やすため、**本機の電源を切ったあと 1 時間以上たってからランプを交換**してください。
・ランプをはずしたあとのランプ収納部に、金属類や燃えやすい物などの異物を入れないでください。火災や感電の原因となります。また、やけどの危険がありますので手を入れないでください。

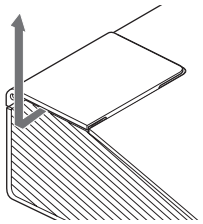
⚠注意

・ランプが破損している場合は、ご自分でランプ交換を行わず、ソニーの相談窓口にご相談ください。
・ランプを取り出すときは、必ず指定された場所を持ち、ランプを傾けずに水平にしたまま取り出してください。指定された場所以外の部分に触れるとけがややけどの原因となることがあります。また、ランプを傾けると、万一ランプが破損している場合に破片が飛び出し、けがの原因となることがあります。

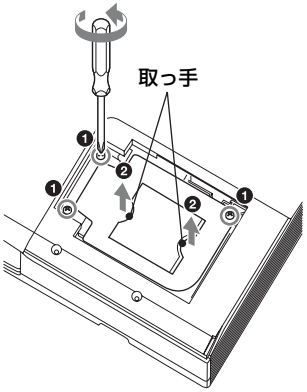
1 電源を切り、電源コードを抜く。

2 ランプが十分冷えてから、ランプカバーのネジ（1 本）をゆるめ、ランプカバーを開く。

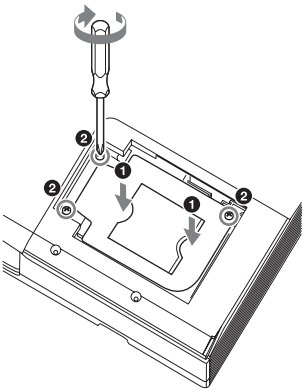




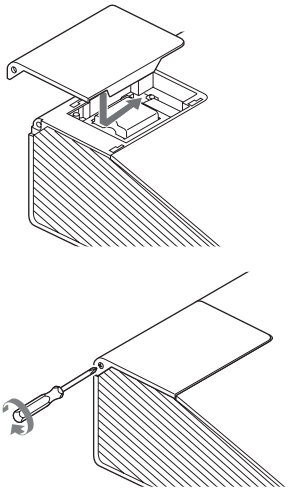
3 ランプのネジ（3 本）をゆるめ（❶）、取っ手を持ってランプを取り出す（❷）。



4 新しいランプを確実に奥まで押し込み（❶）、ネジ（3 本）を締める（❷）。



5 ランプカバーを閉じ、ネジ（1 本）を締める。



ご注意

ランプが確実に装着されていないと、電源が入りません。

6 電源コードを電源コンセントに差し込み、電源を入れる。

7 ランプタイマーの初期化を行う。

次回の交換時期をお知らせするために、ランプタイマーを初期化します。機能設定メニューから「ランプタイマー初期化」を選び、ENTER ボタンを押すとメッセージが表示されます。「はい」を選ぶとランプタイマーを初期化します。（30 ページ）

エアーフィルターを掃除する

投写画面に表示されるメッセージにエアーフィルター掃除のお知らせが表示された場合は、エアーフィルターを掃除してください（82 ページ、83 ページ）。
エアーフィルターを掃除しても汚れが落ちないときは、新しいエアーフィルターに交換してください。新しいエアーフィルターについては、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

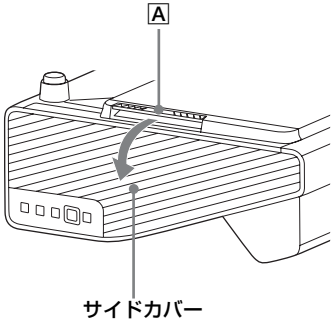
⚠注意

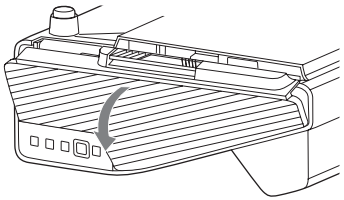
メッセージが表示された後に、そのまま使用し続けると、ゴミがたまり、内部に熱がこもって、故障・火災の原因となることがあります。

1 電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。

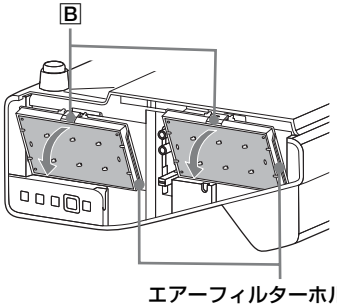
2 サイドカバーを開けてエアーフィルターホルダーを取り出す。

図のように A の部分を押してサイドカバーを矢印の方向に開けてください。その後、中にあるエアーフィルターホルダーを取りはずしてください。



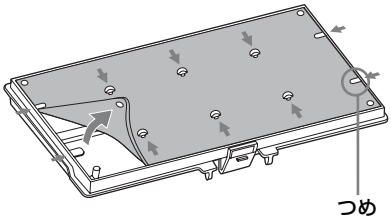


エアーフィルターホルダーは、B の部分を押して矢印の方向に取りはずしてください。

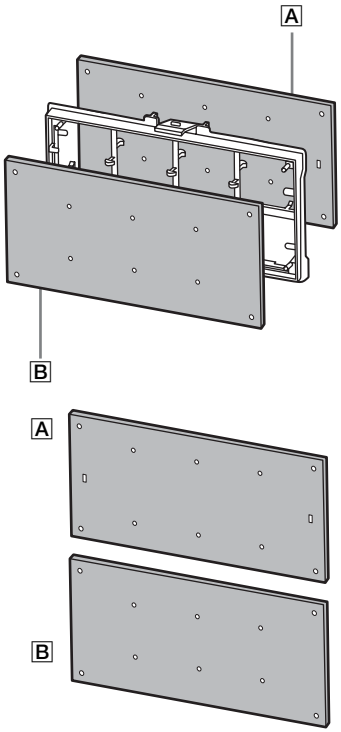


3 掃除機でエアーフィルターを掃除する。

図のようにエアーフィルターを取りはずし、エアーフィルターを掃除機で掃除してください。



エアーフィルターは2枚重ね（A、B）です。



4 サイドカバーを元に戻す。

ご注意

エアーフィルターはしっかり取り付けてください。きちんと取り付けられていないと、故障の原因となります。

仕様

項目		項目説明
型名		VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620/VPL-SX630
投写方式		3LCD 方式
表示素子	有効表示サイズ	VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：0.59 型（15.0 mm）、3 枚、アスペクト比 16：10 VPL-SX630：0.63 型（16.0 mm）、3 枚、アスペクト比 4：3
	有効画素数	VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：3,072,000 画素（1280 × 800 ピクセル、3 枚） VPL-SX630：2,359,296 画素（1024 × 768 ピクセル、3 枚）
投写レンズ	ズーム	手動（約 1.03 倍）
	フォーカス調整	手動
光源		高圧水銀ランプ 225 W 型
画面サイズ		VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：65 ～ 110 型（1.65 m ～ 2.79 m） VPL-SX630：70 ～ 115 型（1.78 m ～ 2.92 m）
有効光束（明るさ）*1		VPL-SW635C/SW630C/SW630：3100 lm VPL-SW620C/SW620：2600 lm VPL-SX630：3200 lm （ランプモード：高）
スピーカー		16 W × 1（モノラル）
対応走査周波数*2		水平：15 kHz ～ 92 kHz、垂直：48 Hz ～ 92 Hz
表示可能解像度*2	コンピューター信号入力時	最大入力解像度：1600 × 1200 ピクセル（リサイジング表示） パネル表示解像度： VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620：1280 × 800 ピクセル VPL-SX630：1024 × 768 ピクセル
	ビデオ信号入力時	NTSC、PAL、SECAM、480/60i、576/50i、480/60p、576/50p、720/60p、720/50p、1080/60i、1080/50i、1080/60p、1080/50p

項目		項目説明
型名		VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620/VPL-SX630
カラー方式		NTSC3.58、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N
コンピューター／ビデオ入出力	入力 A	**RGB/Y P_B P_R 入力端子：**ミニ D-sub 15 ピン凹、同期付 G/Y 信号：1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75 Ω 終端、RGB 信号 / P_B P_R 信号：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω 終端、同期信号：TTL レベル ハイインピーダンス、正負極性 **音声入力端子：**ステレオミニジャック、定格入力 500 mVrms、入力インピーダンス 47 kΩ 以上
	入力 B	**RGB 入力端子：**ミニ D-sub 15 ピン 凹、RGB 信号：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω 終端、同期信号：TTL レベル ハイインピーダンス、正負極性 **音声入力端子：**ステレオミニジャック、定格入力 500 mVrms、入力インピーダンス 47 kΩ 以上
	入力 C	**HDMI 入力端子：**HDMI 19 ピン、HDCP、HDMI audio 対応
	S ビデオ入力	**S ビデオ入力端子：**ミニ DIN 4 ピン、Y 信号：1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75 Ω 終端、C 信号：（バースト信号）0.286（NTSC）/0.3（PAL/SECAM）Vp-p ± 2 dB、75 Ω 終端 **音声入力端子：**ピンジャック× 2、定格入力 500 mVrms、入力インピーダンス 47 kΩ 以上
	ビデオ入力	**ビデオ入力端子**：ピンジャック、1 Vp-p ± 2 dB、同期負、75 Ω 終端 **音声入力端子：**S ビデオと共用
	出力	**モニター出力端子：**ミニ D-sub 15 ピン凹、同期付 G/Y 信号：1 Vp-p ± 2 dB 、同期負、75 Ω 終端、RGB 信号 /$P_B P_R$ 信号：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω 終端、同期信号：HD、VD 4 V（オープン）、1 Vp-p（75 Ω）、正負極性 **音声出力端子：**ステレオミニジャック、1 Vrms（ボリューム最大、500 mVrms 入力時）、出力インピーダンス 5 kΩ

項目	項目説明
型名	**VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620/VPL-SX630**
その他の端子	**RS-232C 端子：**D-Sub 9 ピン凸
	LAN 端子：RJ45、10BASE-T/100BASE-TX
	USB 端子：タイプ A
	USB 端子：タイプ B
	マイク端子：ミニジャック
使用温度 （使用湿度）	0 ℃～ 40 ℃（20% ～ 80%（結露なきこと））
保存温度 （保存湿度）	−10 ℃～ +60 ℃（20%～ 80%（結露なきこと））
電源	VPL-SW635C： AC 100 V、3.4 A、50 Hz/60 Hz VPL-SW630C/SW620C/SW630： AC 100 V、3.3 A、50 Hz/60 Hz VPL-SW620/VPL-SX630：AC 100 V、3.2 A、 50 Hz/60 Hz
消費電力	VPL-SW635C：339W VPL-SW630C：328W VPL-SW620C：321W VPL-SW630：323 W VPL-SW620/VPL-SX630：318 W
待機電力 （スタンバイモード）	0.5 W（スタンバイモード「低」時）
待機電力 （ネットワークスタンバイモード）	5.2 W（LAN） 5.7 W（別売りの WLAN モジュール） 5.9 W（全てのネットワークポートが接続され、全ての無線ネットワークポートが有効になっている場合） （スタンバイモード「標準」時）
発熱量	VPL-SW635C：1157 BTU/h VPL-SW630C：1120 BTU/h VPL-SW620C：1096 BTU/h VPL-SW630：1102 BTU/h VPL-SW620/VPL-SX630：1085 BTU/h
標準外形寸法 （幅×高さ×奥行き）	約 372 × 167 × 382 mm 約 372 × 138 × 382 mm（突起部含まず）

項目	項目説明
型名	**VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620/VPL-SX630**
質量	VPL-SW635C：約 6.3 Kg VPL-SW630C/SW620C：約 6.2 Kg VPL-SW630/SW620/SX630：約 6.0 Kg
付属品	簡易説明書の「付属品を確かめる」をご覧ください。
別売りアクセサリー *3*4	**プロジェクターランプ LMP-E220（交換用）** **USB ワイヤレス LAN モジュール IFU-WLM3** **インタラクティブペンデバイス IFU-PN250A/PN250B**

ご注意

*1 出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X6911:2003 データプロジェクターの仕様書様式にのっとって記載しています。測定方法、測定条件については附属書 2 に基づいています。

*2 詳細は、対応信号表をご覧ください（99 ページ）。

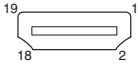
*3 ここに記載されている別売りアクセサリーは、2014 年 12 月現在のものです。

*4 別売アクセサリーの中には、国・地域によって販売されていないものがあります。ソニーの相談窓口に確認してください。

本機（別売アクセサリーを含む）の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

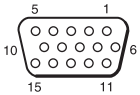
ピン配列

HDMI 端子（HDMI、凹）



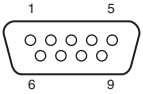
1	T.M.D.S. Data2 +	11	T.M.D.S. Clock Shield
2	T.M.D.S. Data2 Shield	12	T.M.D.S. Clock −
3	T.M.D.S. Data2 −	13	N.C.
4	T.M.D.S. Data1 +	14	RESERVED (N.C.)
5	T.M.D.S. Data1 Shield	15	SCL
6	T.M.D.S. Data1 −	16	SDA
7	T.M.D.S. Data0 +	17	DDC GND
8	T.M.D.S. Data0 Shield	18	+5V Power
9	T.M.D.S. Data0 −	19	Hot Plug Detect
10	T.M.D.S. Clock +		

RGB 入力端子（ミニ D-sub 15 ピン、凹）



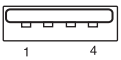
1	映像入力（赤）R	9	DDC 用電源入力
2	映像入力（緑）G	10	接地
3	映像入力（青）B	11	接地
4	接地	12	DDC/SDA
5	RESERVE	13	水平同期信号
6	接地（赤用）	14	垂直同期信号
7	接地（緑用）	15	DDC/SCL
8	接地（青用）		

RS-232C 端子（D-sub 9 ピン、凸）



1	NC	6	NC
2	RXDA	7	RTS
3	TXDA	8	CTS
4	DTR	9	NC
5	GND		

USB 端子（タイプ A、凹）



1	V_{BUS}（4.4 - 5.25 V）
2	Data −
3	Data +
4	Ground

USB 端子（タイプ B、凹）

1	VCC（+5 V）
2	Data −
3	Data +
4	Ground

対応信号一覧 *1

コンピュータ信号

解像度	fH[kHz]/fV[Hz]	入力端子		
		RGB/YP_BP_R	HDMI	RGB
640 × 350	31.5/70	●		●
	37.9/85	●		●
640 × 400	31.5/70	●		●
	37.9/85	●		●
640 × 480	31.5/60	●	●	●
	35.0/67	●		●
	37.9/73	●		●
	37.5/75	●		●
	43.3/85	●		●
800 × 600	35.2/56	●		●
	37.9/60	●	●	●
	48.1/72	●		●
	46.9/75	●		●
	53.7/85	●		●
832 × 624	49.7/75	●		●
1024 × 768	48.4/60	●	●	●
	56.5/70	●		●
	60.0/75	●		●
	68.7/85	●		●
1152 × 864	64.0/70	●		●
	67.5/75	●		●
	77.5/85	●		●
1152 × 900	61.8/66	●		●
1280 × 960	60.0/60	●	●	●
1280 × 1024	64.0/60	●	●	●
	80.0/75	●		●
	91.1/85	●		●
1400 × 1050	65.3/60	●	●	●
1600 × 1200	75.0/60	●	●	●
1280 × 768	47.8/60		●	
1280 × 720	45.0/60	●	●*2	●
1920 × 1080	67.5/60		●*3	
1366 × 768	47.7/60	●	●	●
1440 × 900	55.9/60	●	●	●
1280 × 800	49.7/60	●	●	●

デジタル TV 信号 *4

信号名	fV[Hz]	入力端子	
		RGB/YP_BP_R	HDMI
480i	60	●	●
576i	50	●	●
480p	60	●	●
576p	50	●	●
1080i	60	●	●
1080i	50	●	●
720p	60	●	●
720p	50	●	●
1080p	60		●
1080p	50		●

アナログ TV 信号

信号名	fV[Hz]	入力端子
		VIDEO/S VIDEO
NTSC	60	●
PAL/SECAM	50	●

ご注意

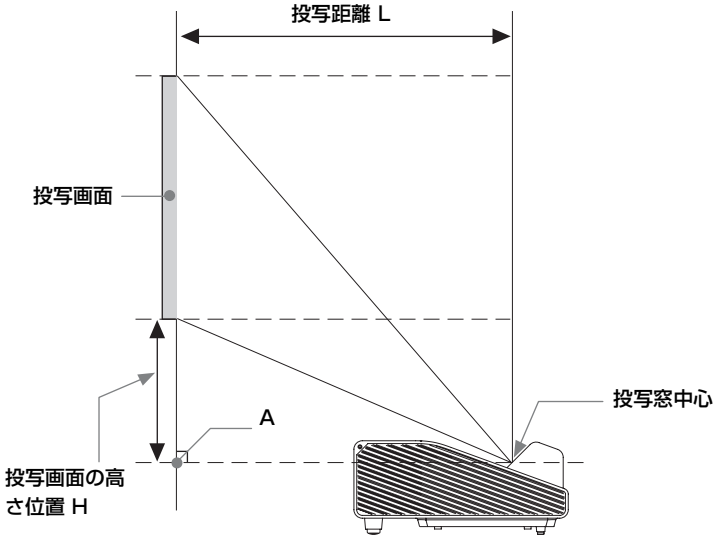
*1：・表に記載されていない信号を入力した場合、画像を正しく表示できないことがあります。
・パネル表示解像度と異なる入力信号では、入力信号そのままの解像度での表示はされず、文字や罫線の太さなどが不均一となる場合があります。

*2：720/60p の動画配信信号として識別されます。
*3：1080/60p の動画配信信号として識別されます。
*4：同期付 G/Y 信号のみ対応。

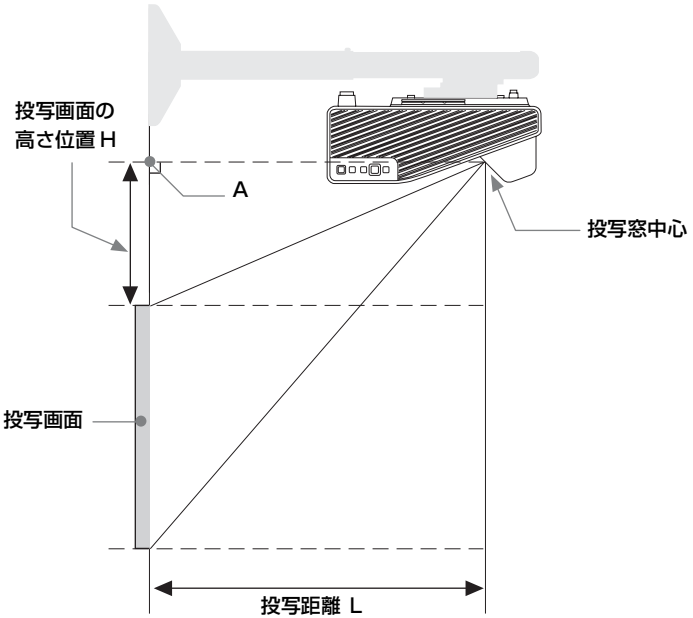
投写距離とレンズシフト量

投写距離は、投写窓中心から投写面までの距離です。投写する画面のサイズごとの投写距離と投写画面の高さ位置を示します。投写画面の高さは、投写窓中心から投写する面に対して垂直に引いた線と投写する面が交差する位置（図中 A）から投写画面の下端（壁設置時は上端）までの距離です。

床置き設置時

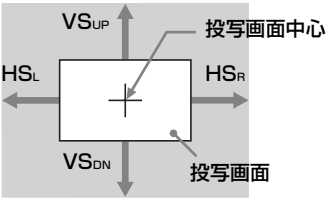


壁設置時



L：投写距離
H：投写窓中心からスクリーン端までの高さ

レンズシフト量は、投写画面の中心を「0」とした場合、そこからどれくらい動かせるかを、投写画面の「全高」または「全幅」を 100% とし、その距離をパーセントで表します。



網掛け:移動できる範囲

VS_{UP}：垂直レンズシフト量（上）[%]
VS_{DN}：垂直レンズシフト量（下）[%]
HS_{R}：水平レンズシフト量（右）[%]
HS_{L}：水平レンズシフト量（左）[%]

投写距離表（VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620）

単位：m

画面サイズ		投写距離 L	投写画面の高さ位置 H	
対角 D	横×縦		投写距離 L（最短）	投写距離 L（最長）
65 型（1.65m）	1.40 × 0.88	0.367-0.378	0.256	0.256
70 型（1.78m）	1.51 × 0.94	0.399-0.411	0.277	0.278
80 型（2.03m）	1.72 × 1.08	0.462-0.476	0.319	0.320
90 型（2.29m）	1.94 × 1.21	0.525-0.541	0.362	0.363
100 型（2.54m）	2.15 × 1.35	0.588-0.606	0.404	0.405
110 型（2.79m）	2.37 × 1.48	0.651-0.671	0.446	0.448

投写距離計算式（VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620）

D：投写画面サイズ（対角）

H：投写窓中心からスクリーン端までの高さ

計算式 1

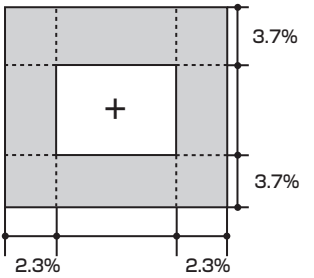
単位：m

投写距離 L（最短）	投写距離 L（最長）
L=0.006306 × D-0.0433	L=0.006502 × D-0.0439

計算式 2

投写画面の高さ位置 H	
投写距離 L（最短）	投写距離 L（最長）
H=0.00424 × D-0.01957	H=0.00425 × D-0.02002

レンズシフト量（VPL-SW635C/SW630C/SW620C/SW630/SW620）



$VS_{UP}[\%]=VS_{DN}[\%]=3.7[\%]$

$HS_{R}[\%]=HS_{L}[\%]=2.3[\%]$

投写距離表（VPL-SX630）

単位：m

画面サイズ		投写距離 L	投写画面の高さ位置 H	
対角 D	横×縦		投写距離 L（最短）	投射距離 L（最長）
70 型（1.78m）	1.42 × 1.07	0.374-0.385	0.172	0.173
80 型（2.03m）	1.63 × 1.22	0.433-0.446	0.200	0.200
90 型（2.29m）	1.83 × 1.37	0.493-0.508	0.227	0.228
100 型（2.54m）	2.03 × 1.52	0.552-0.569	0.255	0.255
110 型（2.79m）	2.24 × 1.68	0.612-0.630	0.282	0.283
115 型（2.92m）	2.34 × 1.75	0.641-0.661	0.296	0.297

投写距離計算式（VPL-SX630）

D：投写画面サイズ（対角）

H：投写窓中心からスクリーン端までの高さ

計算式 1

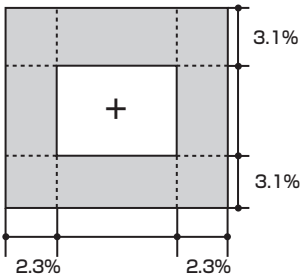
単位：m

投写距離 L（最短）	投射距離 L（最長）
L=0.005950 × D-0.0433	L=0.006125 × D-0.0432

計算式 2

投写画面の高さ位置 H	
投射距離 L（最短）	投射距離 L（最長）
H=0.00275 × D-0.02018	H=0.00275 × D-0.02014

レンズシフト量（VPL-SX630）

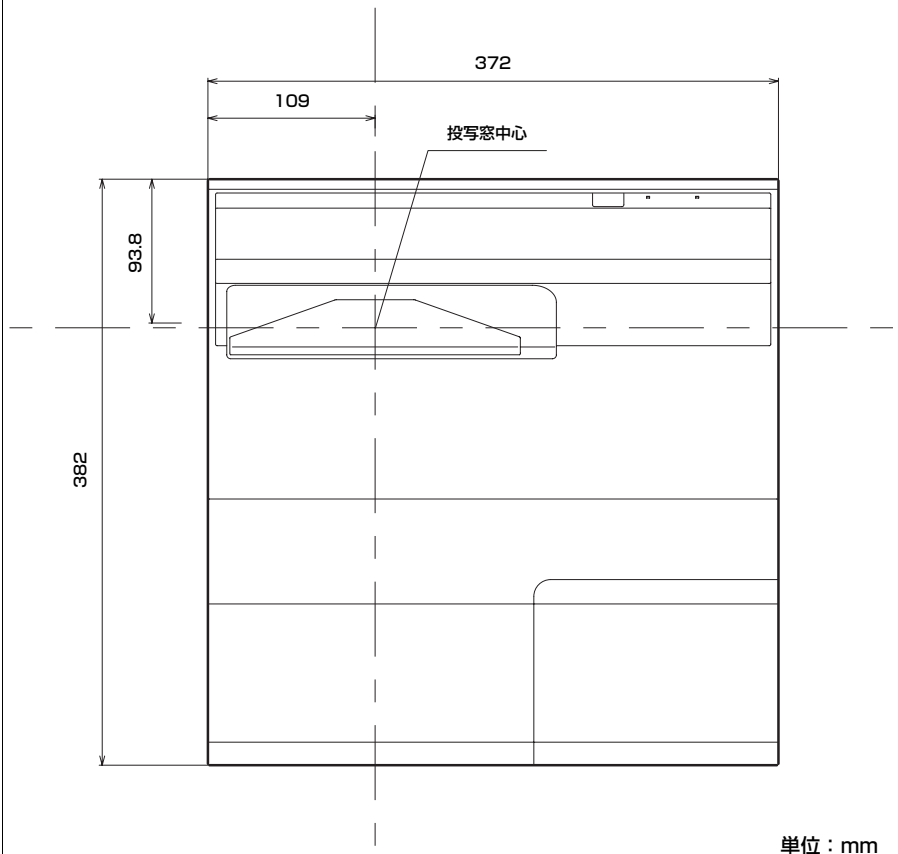


$VS_{UP}[\%]=VS_{DN}[\%]=3.1[\%]$

$HS_{R}[\%] = HS_{L}[\%]=2.3[\%]$

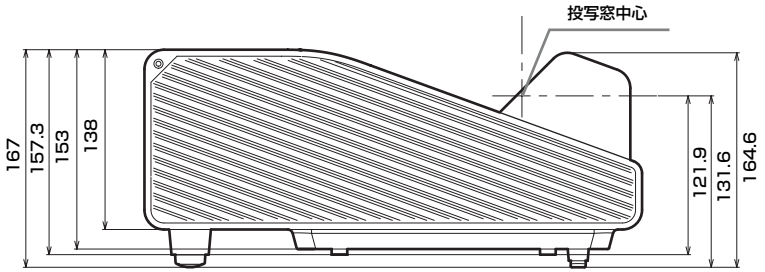
寸法図

本体上面



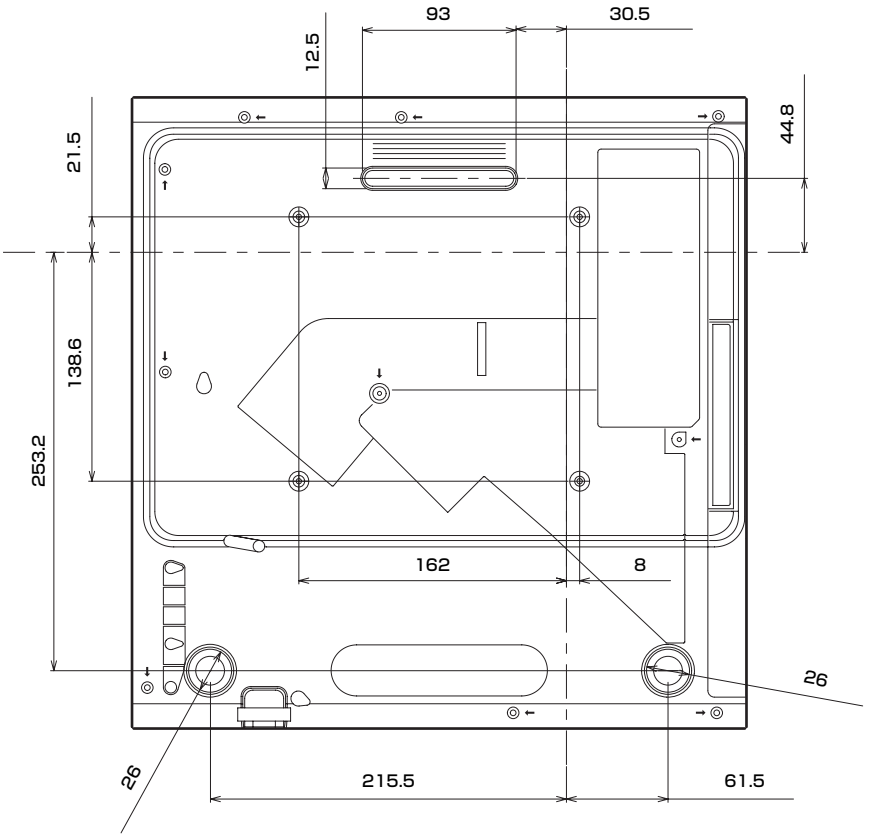
単位：mm

本体前面



単位：mm

本体底面



単位：mm

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間での本機（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license（GPL）、Lesser/Library General Public License（LGPL）を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第１条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第２条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第３条（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
2. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
3. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。

5. お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
6. 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第４条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第５条（許諾ソフトウェアによる指定デバイス等に関する情報の収集）

1. 許諾ソフトウェアの使用開始に伴い、許諾ソフトウェアが、指定デバイス、許諾ソフトウェア、許諾ソフトウェアに関連するコンテンツ、対象外ソフトウェア、及びお客様によるそれらの使用に関する次の各号に揚げる情報（以下「本情報」といいます）を、収集し、ソニーに送信することがあります。ソニーは本情報を本条の規定に従い使用又は保管するものとし、お客様個人を特定する目的では使用しません。但し、特定の許諾ソフトウェア使用時に別途条件が提示され、お客様に同意を頂いた場合には、本情報の使用又は保管はかかる別途の条件に従います。
（ア）自動的に生成される指定デバイスの ID 番号
（イ）指定デバイス及びその構成部分の稼働状況
（ウ）指定デバイス、許諾ソフトウェア、許諾ソフトウェアに関連するコンテンツ又は対象外ソフトウェアの構成情報
（エ）指定デバイス、許諾ソフトウェア、許諾ソフトウェアに関連するコンテンツ又は対象外ソフトウェア、若しくはそれらの使用状況、使用頻度情報（お客様がどの機能を稼働状態にしたか及び関連する統計データを含みます）
（オ）許諾ソフトウェアの使用場所などの位置情報
2. ソニーは、本情報を下記の目的（以下「本目的」とします）のために、法律の定めに従い、保管、使用又は開示できるものとします。
（ア）指定デバイスの機能及び指定デバイス使用時に発生するエラー又はバグの管理
（イ）許諾ソフトウェアのアップデート版 / アップグレード版を提供するための許諾ソフトウェアの機能の管理
（ウ）ソニー、ソニーの関連会社又は第三者の提供する製品、ソフトウェア及びサービスの開発・性能向上
（エ）ソニー、ソニーの関連会社又

は第三者による、製品、ソフトウェア及びサービスに関する情報の提供
（オ）ソニー、ソニーの関連会社又は第三者による、位置情報に基づく製品、ソフトウェア及びサービスの提供
（カ）適用法令等の遵守

3. ソニーは、本情報を次に定める条件に従いソニーの関連会社及び第三者に開示できるものとします。
（ア）ソニーは、本目的の遂行のために、本情報をソニーの関連会社と共有することができるものとします。ソニーの関連会社とはソニーがその総株主の議決権の 50% 以上を直接又は間接に有する法人（法人でない場合は、ソニーが当該事業体の事業方針の決定に対して重要な影響を与えることができる事業体）をいいます。
（イ）ソニーは、本目的の遂行のために、ソニー又はソニーの関連会社が、指定デバイス、許諾ソフトウェア、許諾ソフトウェアに関連するコンテンツ又は対象外ソフトウェアに関して取引を行っている又は将来行う第三者に本情報を開示し、共有できるものとします。
（ウ）ソニーは、政府機関から又は法令に基づいて開示の要求がなされた場合、又は許容される範囲において、違法行為、犯罪行為その他の問題行為から、苦情、クレーム、申立を調査し、ソニー又は第三者の権利を守るために、本情報を保有し、利用し、警察・政府機関を含む第三者に開示することができるものとします。

4. 本情報は、お客様の居住国外に送信され、処理、保管されることがあります。本情報はお客様の居住国外でソニー又はソニーが当該業務を委託する第三者によって処理されます。それらの国においては、データ保護及びプライバシーに関する法律の保護がお客様の居住国の法律と同等でない場合、本情報に関するお客様の権利が制限されることがあります。ソニーは、本情報に対する不正なアクセスや漏洩を防ぐための適切な技術的措置を講じ、体制を維持すべく合理的な努力を致します。但し、ソニーは、かかる措置や体制により、不正アクセスや情報漏洩が生じないことを保証するものではありません。

5. 本契約又は許諾ソフトウェアの使用に関し、ソニーがお客様の個人名、住所、電話番号又は E-mail アドレスなど、個人を特定する情報を収集する場合、ソニーは収集する情報及び目的を明示の上、別途お客様の同意を頂くものとします。ソニーは当該同意を頂く際に提示する条件及びソニーのプライバシーポリシーに従い、かかる情報を使用するものとします。ソニーのプライバシーポリシーについては、http://www.sony.co.jp/privacy/ をご参照下さい。なお、お客様が第三者のソフトウェア又はサービスを使用し当該第三者に何らかの情報を提供する場合には、当該第三者が提示するプライバシーポリシーをご確認下さい。

第６条（オープンソースソフトウェア）

1. 対象外ソフトウェアには、① ソースコードの形式で又は無償で公に入手可能なソフトウェアを含むもの又はその派生物であり、かつ ② 本契約の規定と異なる定めの適用を受けるソフトウェア（対象となるソフトウェア及びその派生物をソースコードの形式で開示又は頒布する義務、対象となるソフトウェアを任意の第三者に対して自由に使用許諾させる義務等を含むがこれに限られない。また、これには GNU General Public License（GPL）や GNU Lesser/Library General Public License（LGPL）に基づいてライセンスされているソフトウェアを含むがこれに限らない。）（以下「オープンソースソフトウェア」とします）が含まれることがあります。
2. ソニーが開示するオープンソースソフトウェアのソースコードは、http://www.sony.net/Products/Linux 又はその他ソニーの指定するサイトにてご確認下さい。オープンソースソフトウェアには、それぞれのオープンソースソフトウェアに該当するライセンス条件が、本契約の代わりに適用されます。

第７条（責任の範囲）

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。
2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。

3. 許諾ソフトウェアにはソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続した際に許諾ソフトウェアが自動的にアップデートされる機能を有するものがあります。お客様が、この自動アップデートの機能を用いない旨設定した場合、又は、アップデートをするか否かを問い合わせる設定にした場合で且つお客様がアップデートの実行を拒否した場合、当該許諾ソフトウェアの全部又は一部の機能が使用できない場合があります。これについてソニーは何等の責任を負わないものとします。
4. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第８条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第９条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第 10 条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。
2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

（ア）許諾ソフトウェアのセキュリティー機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、
（イ）当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること
（ウ）アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第 11 条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティー及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第 12 条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第 4 条、第 5 条第 2 項乃至第 5 項、第 6 条乃至第 16 条の規定は有効に存続するものとします。

第 13 条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から 2 週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第 14 条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第 15 条（ユーザー登録の抹消）

1. お客様が、指定デバイスを譲渡または破棄する場合、または本契約が終了した場合には、お客様は、指定デバイス内の許諾ソフトウェアを削除し、指定デバイスを通じて取得したアカウントを消去することによりユーザー登録を抹消するものとします。
2. お客様は、指定デバイスを通じて取得したアカウント、ユーザーネーム、パスワードに関する情報の秘密保持について一切の責任を負うものとします。

第 16 条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

保証書とアフターサービス

保証書

・この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
・所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを →「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかお調べください。
それでも具合の悪いときは → お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。
保証期間中の修理は → 保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、本機には消耗部品が含まれております。保証期間中でも長時間使用による消耗部品の交換は、有料になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の修理は → 修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

索引

あ

明るさ 24
脚 4, 19
アスペクト 6, 26, 28
色あい 24
色温度 24
色の濃さ 24
インタラクティブ機能 52
インタラクティブペンデバイス 8
エアーフィルターを掃除する 92
映像消去 6
映像を投写する 16
エコ モード 7
音量 7

か

各部の名前と働き 4
画質設定 24
画質モード 24
画像反転 36
画像反転連動 36
画面表示 32
画面モード 26
ガンマモード 24
輝度一定 33
機能設定 30
キャリブレーション 30, 56, 60
高地モード 36
故障かな？と思ったら 85
コントラスト 24
コントロール画面 40
コンピューターとの接続 9

さ

シャープネス 24
出力 5
仕様 94
消音 7
情報 37
シリアル No. 37
信号の種類 37
信号無変化時設定 34
垂直周波数 37
水平周波数 37
スタートアップイメージ 30
スピーカー 30
スマート APA 30
ズームレバー 4, 18
セキュリティロック 32
接続端子 5
接続端子部 4
接続／電源設定 33
設置設定 36
操作キーロック 32
操作設定 32
操作部 6

た

対応信号 一覧 99
台形補正 6, 20
タイプ B USB 割り当て 30
デジタルズーム 6
電源コンセント 5
電源を入れる 6, 16
電源を切る 6, 21
投写距離とレンズシフト量 101
盗難防止用バー 4
盗難防止ロック 4

な

入力 5
入力信号調整 27
入力を切り換える 6
ネットワーク機能を利用する 39, 70

は

排気口 4
ビデオ機器との接続 12
表示言語 32
ピン配列 98
フェーズ、ピッチ、シフト 27
フォーカスレバー 4, 18
フリーズ 7
別売りアクセサリー 97
保証書とアフターサービス 114
ホワイトボードデータ 31
本体 4

ま

マウスモード 68
無信号時設定 33
メールレポート 41
メッセージ一覧 83
メニューの操作のしかた 22
モデル名 37

ら

ランプカバー 4
ランプ使用時間 37
ランプタイマー初期化 30
ランプを交換する 90
リモコン 6
リモコン受光部 4

A

APA 6

C

CC ディスプレイ 30

H

H（水平） 27

L

LAMP/COVER インジケーター 4, 82
LAN 端子 5

P

PC フリーインタラクティブ 30, 61
Projector Station for Network Presentation 70

R

RS232C 端子 5

U

USB Display 75
USB Media Viewer 77

商標について

・Adobe、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
・Kensington は Kensington 社の登録商標です。
・HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
・Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
・PJLink は社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会の登録商標です。
・AMX は、AMX Corporation の商標です。
・Crestron RoomView は Crestron Corporation の商標です。
・Mac、Mac OS は Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
・その他のシステム名、製品名は、一般的に各開発メーカーの商標あるいは登録商標です。なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

よくあるお問い合わせ、窓口業務などはホームページをご利用ください。
http://www.sony.jp/professional/support/

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-788-333**
携帯電話・PHS・一部のIP電話など
フリーダイヤルがご利用になれない場合 ・・・ **050-3754-9550**
FAX **0120-884-707**
受付時間　9:00～18:00（土・日・祝日、および休業日は除く）

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/